

六 債務整理関係

昭和6年1月10日 在上海横竹商務參事官より
幣原外務大臣宛(電報)

銀価は旧年末より漸落の一途を辿り新春に入つて一層その速度を早めている状況について

上海 1月10日後発
本省 1月10日後着

商第三號

一、銀價ハ舊年末ヨリ漸落ノ一途ヲ辿リ新春ニ入り一層其ノ速度ヲ早メ昨九日倫敦銀塊一三片一六分ノ三對日爲替一六一兩ノ新高値ヲ出現シ金塊亦之ニ隨伴七四〇兩内外ニ撥上リ中國側投機者中一二破綻者ヲ出シ一部外國銀行側モ警戒爲替賣止ヲ行フ者アルニ至リ市場人氣ハ一種所謂恐怖狀態ニ陥ツタ

二、銀價低落ノ原因トシテハ地方的ニハ滿洲特產物北方ノ棉花中部ノ桐油當地方ノ生絲茶等中國主要農產物ニ海外ニ於ケル需要減退ニ基ク輸出貿易ノ不振ニ關聯シ當

銀貨ノ品位引上或ハ發行準備金ノ一部トシテ銀保有ヲ爲ス等ハ相當有效ナル維持策ニテ此ノ際進ソテ中國ヲシテ貨幣統一整備ニ對シ適切ノ方策ヲ取ラシムル等肝要ナリト稱セラレ居ル次第ナルカ此等若シ可能性ナクハ中國輸出貿易ノ自然的立直リヲ待ツ外ナキ譯ニテ差當リ近ク銀價ノ安定恢復ハ望ミ難キカ如ク思ハル

昭和6年1月10日 在中國重光臨時代理公使より

債務整理資金の中国再投資案に関する大蔵省

意見の解釈緩和方について

機密公第十四號

昭和6年1月10日

在中華民國

臨時代理公使 重光 葵〔印〕

亞細亞局長 谷 正之殿

債務整理ニ關スル件

一、民國側カ今回ノ債務整理ニ際シ建設事業ノ遂行等ノ爲關係國ヨリ新ニ信用ヲ供與セラレ從テ少クトモ當分ノ

地在銀ノ奥地移動少ク現在銀兩一億六千萬兩銀元一億五千六百七十萬弗ト依然豊富ヲ示シ居ルト根本的ニハ印度政府ノ手持銀約三億萬「オノス」ヨリ毎年三、四千萬「オノス」宛處分賣出シヲ爲シツツアルコトカ銀塊ト當市場ニ相互ニ投賣ヲ競フカ如キ傾向ヲ招來シ謂ハ材料以上二人氣先走リ萎縮ノ姿テアル

三、銀價ノ低落ハ中國ニ於ケル投資及購買力ニ甚大影響ヲ及ホシ中國側ハ勿論關係國ノ蒙ル影響重大ナルモノアルコト勿論ナカラ爲替高ニ隨伴シ一般物價モ騰貴シツアレハ高カレ安カレ爲替ノ大體ノ安定ヲ計ルコト寧ロ貿易上最急務ナルカ如シ

四、右ニ付當業者側ノ意図ヲ綜合スルニ此ノ際印度ヲシテ賣出シノ中止又ハ緩和或ハ其ノ態度ノ聲明ヲ爲サシムルコト先決的重要問題トサレ居リ當地ニ國際銀「ブル」ノ組織ニ加フルニ對支貿易關係國協調ニ依リ補助

間ハ整理ノ結果支拂ハルヘキ金額ノ相當ナル部分カ此ノ目的ノ爲民國ニ殘サルコトヲ重要視シ居ル事情ハ篤ト御了解ノ通ナルカ之ニ對シ我方ニ於テ政府及債權者共右民國側ノ希望ヲ満足セシムル用意アリトノ空氣ヲ先方ニ通スルコトハ本件整理ノ實現上極メテ重要ノコトニシテ此點ニ付テハ客年大臣來電(公第415號)三御垂示ニ基キ既ニ本官ヨリ宋子文ニ對シ夫トナク右我方ノ空氣ヲ傳ヘ居ル次第ナル處最近貴官ヨリ御送付ノ理財局意見ニ依レハ右方針實行ヲ全然不可能ナラシムルモノト認メラル

二、尤モ右理財局ノ意見ハ(イ)本邦債權者側ノ實際ノ意向ヲ微シタル結果ナルヤ否ヤ不明ナルノミナラス(ロ)政府關係ノ債權ニ付テモ餘リニ窮屈ナル法律論ニ因ハレ居ル(註)客年往電公第一二八六號參照)ヤニ認メラルルヲ以テ政府トシテハ右解釋ヲ緩和スル等適當ノ措置ニ依リ前記ノ方針ヲ實行シ得ル様充分ノ措置ヲ執ラルモノト存セラル處萬一右不可能ナル場合ニハ本件整理ノ實現ハ極メテ望薄トナル次第ナルニ付右ノ事情篤ト御含ノ上本件對策ニ付此ノ上共充分ノ御考量ヲ御願ス

編注一 昭和期I第一部第四卷429文書参照。

編注二 昭和期I第一部第四卷455文書参照。

606 昭和6年1月13日 幣原外務大臣 ドブル仏國大使 会談

宋子文の借款團本部アディスに対する借款申
入れに關し意見交換について

對支借款ニ關スル幣原大臣在本邦佛國大使會談要領
(一九三一年一月十三日谷局長述、北澤記)

昭和六年一月十三日在本邦佛國大使幣原大臣ヲ來訪シ客年十二月二十七、八日頃本國政府ヨリ接到シタル電報ニ依レハ宋子文ヨリ Sir Charles Addis ニ對シ借款ノ申込アリンニ依リ「アヂス」ヨリ各團体ニ之ヲ通報シタル趣ナル處佛國ニ於テハ右ハ從來孫科等カ借款團ニ反對シタル經緯ニモ顧ミ耳寄リノ話ト認メタルノミナラス佛國ハ該借款ニ應スル資金ヲ有スル次第ナルモ支那カ治外法權ヲ一方的ニ撤廢スルト云フカ如キ態度ニテハ危險ニシテ借款ニ應スルコト困難ナリトノ意見ナリ而シテ右借款談ハ華府ニ於テモ行ハレタル模様ニテ在米支那公使伍朝樞カ「キヤツスル」國務

次官補ニ對シ治外法權ノ即時撤廢ヲ申込ミ米國ニ於テ之ニ應セサレハ交渉以外ノ手段ヲ執ルコトアルヘキコトヲ諷シタルニ對シ同次官補ハ斯ノ如キハ支那ノ利益ニ合致セサルヘシ支那ハ目下資金ヲ要スルヤニ見受ケラル處支那カ右ノ如キ一方的義務破棄ノ態度ニ出ツルニ於テハ外國トシテモ借款ニ應スルコトヲ得サルヘシ尙又支那カ借款ヲ爲スニハ適當ノ管理方法ヲ提供スルコト必要ナルヲ以テ支那トシテハ此ノ點モ考慮ノ要アルヘシト告ケタル趣ニテ本件ニ關スル米佛兩國ノ意向ハ完全ニ一致シ居レリト語リタルニ付幣原大臣ハ貴大使ノ御話ヲ綜合スルニ米佛兩國ハ借款ニ應シ得ルモ之ニ付テハ支那カ一方的義務破棄ノ態度ニ出ツルカ如キコトナク又相當ノ管理方法ヲ提供スルコトヲ要スト言フニ歸着スルカ如シト述ヘタルニ同大使ハ大体御意見ノ如シト述ヘタリ

仍テ同大臣ハ本件ニ付テハ正金ヨリ何等報告ニ接シ居ラス(註、係官ヨリ正金ニ問合セタル處同行ニテハ「アヂス」等ヨリ本件ニ付何等通報ニ接シ居ラサル處念ノ爲メ出先ニ電照スヘシトノコトナリ)從テ當座ノ思付ヲ述フルニ過キサル次第ナルカ借款團ニシテ現存シ居ル以上右支那側申出

ニ對シ相手ニナラサル譯ニハ行カサルヘキモ現實ニ借款ニ

應スルタメニハ其ノ金額、目的、擔保等ニ付考慮ヲ加フルヲ要スヘキ處此等ノ諸點ハ如何ト問ヘルニ同大使ハ右等諸點ハ明カナラスト答ヘタリ尙同大臣ハ絞上ハ主トシテ「ビズネス」ノ見地ヨリスル考慮ヲ述ヘタル次第ナルカ更ニ之ヲ政治的ニ考フレハ借款ニ應スルニハ支那カ一方的義務破棄ノ態度ニ出ツルカ如キコトナキヲ要スヘシ又本邦銀行家トシテモ從來其ノ對支借款力貸倒レトナリ居ル關係上支那ニ於テ之ヲ整理セサル限り新ナル借款ニ應スルコトヲ得サルヘシト思考スル旨述ヘタルニ同大使ハ御意見ノ次第ハ至極尤モト存スト答ヘテ引取リタリ

607 昭和6年1月13日 在中國矢野公使館參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

米國公使館パーキンスが銀借款も力ナダの小

麦借款も実現不可能と陳述について

北平 1月13日前發

本省 1月14日前着

貴電合第一三號ニ關シ
十二日米國公使館「パークインス」ハ本官ニ對シ本件ニ付テハ本國政府ヨリ何等通知ニ接シ居ラサル處此ノ種運動ハ米國ニ於テハ「ネバダ」ノ銀業者カ銀ノ暴落ニ困窮シテ之ヲ上院ノ問題トナシタルト同様加奈陀ニ於テモ小麥ノ暴落對策トシテ本件ノ如キ話ニ進展シタルモノニテ何レモ支那ノ實狀ヲ知ラサルヨリ出テタル誤解ナルカ最近「モルガノ」代表カ今日斯ノ如キ多額ノ對支借款ハ一般市場ニテ消化ノ見込ナキヲ以テ之ヲ實行ストセハ政府借款トスルノ外ナカルヘシト述ヘタル旨新聞ニ現ハレ居ルヨリ察スルモ勿論實現ノ見込ナカルヘク殊ニ加奈陀カ小麥ヲ南京ニ賣リ込マントスルモ支那ハ本年到ル處豐作ニシテ多量ノ小麥ヲ買フ必要モナク又其ノ資力モナキコトハ明カナリト語レル由又同日英國公使館「イングラム」ハ目下南京總領事ニ電報シ小麥賣リ込ミ說ニ付「マーラー」公使ニ對シ確カメ中ナルカ同公使ノ南京行キハ恐ラク同公使カ支那ノ内亂終熄シタルコトニモアリ加奈陀ノ過剩小麥ヲ賣リ込ムニハ好機ナリト漠然考ヘタル結果ナルヘク何等具體的計畫アル譯ニハアラサルヘシト思考ス同公使ハ先般來平ノ際支那ニ加奈陀ノアラ

- 608 昭和6年1月13日 在ニューヨーク堀内(謙介)総領事
より
幣原外務大臣宛(電報)
ラモントが対中借款に関するステイブンス案
を否定の旨談話について
ニュー・ヨーク 1月13日後発
本 省 1月15日後着
- 609 昭和6年1月13日 在広東須磨(彌吉郎)総領事代理より
幣原外務大臣宛
英國側が香港税關設置に同意した背景には対
中借款問題もあるとの情報について
機密公第七九號
昭和六年一月十三日
在廣東
總領事代理 須磨 彌吉郎〔印〕
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
中英借款說ニ關スル件
客年十月宋子文南下ノ際香港税關設置問題ニ關シ接衝スル所アリ結局英國側ハ廣東省内河航行權擴張要求條件ヲ放棄スル代リニ中山自由港開設中止方ヲ新條件トシテ右懸案ニ同意ヲ與ヘタルカ(客年十一月初旬拙電參照)最近仄聞スルニ右條件ノ裏面ニハ英支借款問題モアリシヤノ趣ナル處聞込ミトシテ極秘ノ含ミヲ以テ當館館員ニ語ル所ニ依レハ國民政府ハ山西、西北兩軍善後措置費用トシテ張學良ニ對シ五千萬元ヲ交付スル約束アリタル外今年度裁釐ノ準備金
- 代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ
支、南京、奉天へ轉電セリ
- 第三號
貴電第一號ニ關シ
- 610 昭和6年1月15日 在中國堀内(干城)公使館書記官より
代理公使、北平參事官、香港、南京
本信寫送附先

一月一三日「ラモント」ニ面會シ最近支那ニ對スル財政的援助ニ關シ各種ノ考案新聞ニ依リ傳ヘラレ就中「ステイブンス」案ナルモノニ付テハ既ニ英米ノ相當ナル筋ト協議中ナルヤノ情報モアリ右ニ關シ何等聞込ミノ次第ナキヤト尋ねタル處「ラモント」ハ自分ハ單ニ新聞ニ依リ承知シ居ルノミニテ未タ如何ナル方面ヨリモ對支借款ニ付相談ヲ受ケタル事無ン自分ノ見ル所ニテハ今日ノ支那ハ未タスル借款ヲ供與シ得ル事態ニ達シ居ラサルカ故所謂「ステイブンス」案ナルモノノ如キハ眞面目ノ沙汰トモ思ハレス假ニ英米加キヤ米國民間ノ資本家力今日斯ル借款ニ應スル見込モナク又米國政府自身力引受クヘシトモ思ハレス自分トシテハ断シテ政府ニ斯ルコトヲ勧メ得ヘキニ非ス過日「ネバタ」州ノSilver Interestsヲ代表スル上院議員「ピットマン」自分ヲ來訪シ頻リニ對支銀貸付ノ考案ニ付説明シタルモ自分ハ少シモ感服セサリシ次第ナリト語レリ
英、米、加ニ轉電シ、英ヲシテ佛ニ轉電セシム

債務整理計画も銀価下落による関税減収に対

応が必要なるについて

拜啓陳者小生ト曾宗鑑トノ最近ノ會談ハ客臘二十九日ノ電報ニ依リ御承知ノ通ナル處其後重光、宋子文ノ間ノ話合ニ依リ例ノ問題ノ決定ハ一般的整理ノ研究ヲ今少シ進メタル上ニテ之ヲ爲ス事適當ナリトノ見地ヨリ更ニ曾トノ間ニ右研究ヲ進ムルコトアリタルカ時恰モ民國側新年休暇アリ引續キ民國稅關側ニテ一九三〇年度ノ關稅收入ヲ報告シ右ニ依レハ昨年度ノ年收二億七千萬元トナリ從來研究ノ結果ヨリ一千萬元ノ減收ト成リ居リ又銀價下落ノ趨勢熄マス整理計畫ハ右二個ノ新事實ニ適應スル様相當ノ考量ヲ拂フ必要モ生シ此等ノ點ニ關シ本十五日曾ト更ニ話合タル結果(一)海關收入ニ付テハ(1)天津ニ於ケル減收(二百萬海關兩)ハ閻錫山押收ノ爲ナラスヤ(2)常關收入ヲ含ムヤ(3)海關兩ト金單位トノ比率(銀ニテ徵收シタル部分ニ付)如何等ヲ海關側ヨリ承知シタル上從來ノ二億八千萬元ニ適當ノ調整ヲ加フル事(2)銀價ニ付テハ前途安定ノ時期ヲ俟チ難キ故常識的ニ考ヘ合理的ナル比率ヲ協定シテ計畫ノ基礎トスルヨリ外途ナキ事等色々話合ノ結果互ニ整理案ヲ研究スルコトト致

尙其ノ節曾ハ銀價問題ニ付既ニ當方ヨリ電報アリタル在米中國銀行貝淞蓀ノ計畫ナルモノト同様ノ考ヘヲ述ヘ居リ特ニ(世界ノ銀產額ニ付テハ統計ニ依リ豫想シ得ヘク之ヲ「コントロール」シ得ルニ反シ)印度ノ銀賣出ニ付テハ數千年間ノ印度人ノ銀蓄藏量從テ賣出額ノ推測付カサル爲全然「コントロール」出來ス之カ銀價不安定ニ對スル一大脅威ナレハ政府ニ於テ賣控ヲ決定セシムルヨリ外途ナシト力說致居候

(欄外記入)其ノ節小生ヨリ別紙ノ如キ試案ヲ参考ノ爲曾ニ提示シテ小生ノ「アイデー」ヲ披露シタル處曾ハ参考ニナルヘント受取り小生ヨリ説明ヲ加ヘタルモ仲々十分引き入レラレス先方ヨリ伊太利ノ戰債整理案ノ話等致シ居リ(但シ六十年ハtwo generationsモカカリ困ル又戰債ト借款特ニ商業借款トハ全然性質異ルト互ニ言ヒ合ハセ笑ヒタリ)小生トシテハ右ニ對シ前記ノ如キ必要ナル調整ヲ加ヘ漸次右ノ「ライン」ニ引キ付タル心算ナルモ本件ニ付テハ未タ正式ニ報告ヲ願フ自信モ無之代理公使ノ注意ニ依リ貴官御參考迄右別紙相添内報致候ニ付御研究置被下度尙右ハ債權者側

ハ内密ニ願上度右要用迄如此御座候 敬具

追テ同表脚註ニ付テハ客年十二月二十日附機密公第三四一號附屬乙號及甲號脚註御參照アリ度向本表ノ數字ハ檢算ヲ要スル次第御含置ヲ請フ

昭和六年一月十五日

堀内書記官

守島第一課長殿

(欄外記入)

客年末電報セル參戰借款等運用會計關係ノモノヲ三十年間「モラトリウム」ニスルト云フ「アイディア」ニ基クモノ也

611 昭和6年1月17日 在中國重光臨時代理公使より

宋子文等が中國は銀借款を受諾する意思なく同説が銀ト落に悪影響を及ぼしたる旨説明について

幣原外務大臣宛(電報)

本省 1月17日後着 上海 発

モノニ非スト言明シタル旨ノ十五日華盛頓發「ルーター」

ヲ掲ケタリ

南京、上海へ暗送セリ

機密第二五號

(1月29日接受)

昭和六年一月十七日

在濟南

總領事 西田 畑一〔印〕

612 昭和六年一月十七日

在濟南西田總領事
幣原外務大臣宛

山東省実業借款の中央移管は裁厘の結果同借

款担保物件の消滅が理由について

付記一 昭和五年十月九日付幣原外務大臣より在濟

南西田總領事宛一機密第九三号公信

山東実業借款整理交渉援助方訓令

二 昭和五年十二月十一日付在濟南西田總領事

より幣原外務大臣宛機密第五六三号公信

中央財政部は山東省政府にて整理方回訓の

模様について

三 昭和五年十二月二十八日発在濟南西田總領

事より幣原外務大臣宛第七一七号電報

山東実業借款に関する韓山東省主席および

王財政庁長の談話について

本件ニ關シ客年十二月二十六日本官王財政廳長ニ會見シ中日實業會社ノ窮状ヲ説明シ高木駐在員ヨリ直接懇請スヘキモ臨時辦法トシテ相當額融通方申入レタル際全廳長ハ當時山東省裁厘延期請願ノ要務ヲ帶ヒ赴京中ノ秘書長翁之鉢ヨリ本借款ハ内外債整理委員會ニテ處理スルコトニ承諾ヲ得タルヲ以テ一件書類送付アリタキ旨來電アリタル趣ヲ述ヘ居リシ次第ハ既電ノ通リナルカ高木ヨリノ申出ニ依レハ全月二十日附ニテ宋部長ヨリ全人ニ對シ本件ハ從來ノ方針通り省政府ニ於テ償還スヘク右省政府ニ指示セル旨別紙甲號寫ノ通り通知越アリタル趣ナリ

右ハ翁秘書長力財政部ト打合ハセシ以前ノ決定ニテ其後内外債整理委員會ニテ處理スルコトハナリタルモノト認メラルハ處昨年末高木駐在員ヨリ省政府財政廳長ニ年末切抜ケ寫ノ通り通知越アリタル趣ナリ

在濟南
總領事 西田 畑一殿

中日實業關係山東實業借款整理交渉援助方ノ件

ニテ王財政廳長ヨリ別紙乙號寫ノ通り融通出來難キ旨及本件整理ハ客年末中央ニ派遣セラレタル委員力財政部ト協議ノ結果宋部長ノ承認ヲ得本件ハ内外債整理委員會ニテ審査決定スルコトハナレ趣回答アリタリ

右ハ山東省政府力從來本件借款ハ軍費ニ使用セラレタルヨリ中央政府ニテ償還セラルヘキモノナリト主張セル以外ニ今回中央ノ命ニヨリ本月一日ヨリ裁厘ヲ實施セル爲本借款ノ主要擔保タル地方貨物稅鐵路貨捐等消滅シ之ニ對スル中央ノ補填額及營業稅ヲ課徵スヘキモ其額全然未定ナルヲ以テ中央ニ省政府ノ事情ヲ説明シ本件整理方ヲ請願セシ結果ニ非スマト思考セラル

(付記二)

機密第五六三號

昭和五年十二月十一日

(12月18日接受)

本信寫送付先 代理公使 北平 青島 南京

(付記二)

亞一機密第九三號

昭和五年十月九日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

本件ニ關シテハ客月二十日附機密第五三五號拙信ヲ以テ報告致置キタル處本月二日目下上海ニ滯留中ノ同公司高木副總裁ヨリノ報告ニ依レハ宋部長ノ内話トシテ整理委員長秘

書長曾宗鑑力高木ニ對シ本借款ハ山東省政府自体ニテ責任

(欄外記入) ヲ以テ整理スヘキ様發令シ置キ之力爲中央ニテハ省政府ヨ

リ納入スヘキ金額ヲ幾分扣除シ省政府ノ餘裕ツク様手加減

シ居ル次第ニ付本件ハ同省政府側ト商議セラル、様致サレ

度シト語リ又財政部ヨリ別紙甲號寫ノ通り回答アリタル趣

ナルカ他方當地高木駐在員モ本件整理ニ付財政部ニ申入レ

置キタルニ之亦別紙乙號寫ノ通り山東省政府ニ於テ財政廳

ヲシテ整理償還方回訓セル旨回答アリタル趣報告アリタリ

依テ本官本月八日韓主席ニ會見ノ際本件整理方ニ關スル前

記報告ヲ概述シタル上中日實業公司ニテハ本件借款ハ當地

ニ於テ山東省政府ヲ相手トシテ山東省ノ爲メニナシタルモノニシテ現ニ山東省ノ徵稅ヲ擔保トセル次第ニテ數年來償

還實行セラレス借款額益々増加スルノミナラス同公司ハ斯

ル巨額ニ達スル借款ニ對シ整理償還ナキニヨリ出資銀行ヨ

リハ屢次嚴重ナル督促ヲ受ケ居リ經營至難ニ陥リ殊ニ當地

駐在員ノ如キハ貴主席就任後本年十月以降顧問手當トシテ

月額銀五百元宛支給セラレ居ルモ以前ノ分八千餘元未收ナ

ル爲家貸ノ支拂ヒニサヘ困難ヲ感シ居ル狀態ナルヲ以テ此

ノ邊ノ事情御考慮ノ上速力ニ解決セラル、様致度シト申入

本官ハ本件借款ハ既ニ期限モ満了シ居ルヲ以テ不取敢契約
ヲ更新シ何ト力解決辦法ヲ講セラレ度何時迄テモ借款ノ償
還方法定マサルニ於テハ中日實業公司ノ受クル影響不尠ル
次第ニ付事情篤ト御考察ノ上解決方取計アリ度キ旨ヲ繰返
シ申入レ次テ公文ニテ別紙丙號寫ノ通り照會シ置ケリ尤モ
高木當地駐在員ヨリノ報告ニヨレハ本件ハ中央ヨリ省政府
急ニ取運ヒ難キ口吻ヲ洩シ居タルニ付

トシテ整理償還スヘシト回訓アリタル模様ナルモ省政府ヨリ
同駐在員ニ對シ別紙丁號寫ノ通り本件ハ中央ヨリ未タ確實
ナル回訓ニ接セサル爲更ラニ中央政府ニ稟請シタル旨回答

アリタル趣ナリ

右報告ス

本信寫送付先 在中國代理公使、在北平參事官、在青島總

領事、在南京領事

(付記三)

第七一七號
濟南 12月28日後發
本省 12月28日後着

中日實業公司關係ノ山東實業借款整理方ニ付テハ累次報告

ノ通ナル處其ノ後省政府ハ年末ニ顧ミ特ニ高木駐在員ノ顧

問料ノ未拂額（八千五百元）ノ内三千元ヲ支給スルコトト

ナリタルモ借款自体ノ整理方法ハ未決定ナルニ付本官二十

六日韓主席ニ會見シ既ニ年末差シ迫リ契約更改等必要ナル

手續ヲ完了スルコト能ハサルヘキモ中日實業公司ノ現狀ハ
過日述ヘタル通り年關切抜ケニ窮シ居ル狀態ニ付臨時便法

レタル處

韓主席ハ省政府改組後幾何ナラサル爲財政ノ基礎未タ定マ
ラス且中央ハ本件ノ爲ニ當省財政ニ相當餘裕ヲ存セシメ居
レリトノ話ナルモ中央ノ收入タルヘキ菸酒稅、鹽稅、印花

稅等ノ如キ諸稅ハ全部中央ニ送付シ居リ加フルニ省内各地

方ハ戰禍ノ餘殃甚シク租課ノ徵收豫期ノ如クナラス又本件

借款ハ當時軍隊解散費ニ全部使用セラレ何等山東省ノ實業

等ニ有益ニ使用セラレス然レトモ借款セシユトハ事實ナル

ニ付何ト力整理償還スルコト當然ナルヨリ中央政府ニ對シ

之カ整理償還方ヲ稟請セル次第ニテ中央ヨリ單ニ省政府ニ

テ可然整理償還スヘシト命アリタリトテ省政府トシテハス

ル巨額ノ借款整理ハ負擔ニ堪ヘサル所ナリト述ヘ本件ハ至

急ニ取運ヒ難キ口吻ヲ洩シ居タルニ付

本官ハ本件借款ハ既ニ期限モ満了シ居ルヲ以テ不取敢契約
ヲ更新シ何ト力解決辦法ヲ講セラレ度何時迄テモ借款ノ償
還方法定マサルニ於テハ中日實業公司ノ受クル影響不尠ル
次第ニ付事情篤ト御考察ノ上解決方取計アリ度キ旨ヲ繰返
シ申入レ次テ公文ニテ別紙丙號寫ノ通り照會シ置ケリ尤モ
高木當地駐在員ヨリノ報告ニヨレハ本件ハ中央ヨリ省政府
トシテ相當額融通方取計ヒタキ旨篤ト申入レタル處同主席
ハ中央ノ命ニ依リ明年一月一日ヨリ全國ニ互リ裁釐ヲ實行
スヘク當省ニテモ貨物稅、鐵路貨捐等撤廢セラル爲省收
入激減スル關係上約一千萬元ニ近キ本借款ハ省政府ノ負擔
ニ堪ヘサル處ナルヲ以テ中央ニ稟請セル次第ナリトテ臨時
融通方ノ困難ナル口吻ヲ洩ラセリ

又同日王財政廳長ニ會見シ上述臨時融通方申入レタル處同
廳長モ韓ト署同様ナル答ヘヲ爲シ目下裁釐實施延期方ニ付
上京中ノ翁秘書長（往電第七一五號參照）ヨリ中央ト話合
ノ結果本借款ハ今回内外整理委員會ニテ處理スヘキコトト
ナリタルニ付一件書類ヲ同會ニ送付セラレタント二十五日
來電アリタル趣ヲ述ヘタリ右不取敢
支ヘ轉電シ北平、青島、南京ヘ暗送セリ

(欄外記入)
大藏省ハ本借款ニ異論ナシ

613 昭和6年1月20日 币原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

一億円借款は貸付金に該当しないため政府の
指揮監督権行使困難なる旨垂細亞局長伝達

第二〇號（暗）

本省 1月20日後11時59分発
客年貴電公第一二八六号ニ関シ

垂細亞局長ヨリ左ノ通

一、所謂一億円借款ニ付テハ政府ハ大正十五年法律第四十

一号ニ依リ三銀行ニ対シ一定ノ反対給付ヲ命スルト共ニ直接之ト関係ナク一定金額ヲ交付セルモノニシテ之ヲ三銀行ニ対スル貸付金ト見ルハ當ラス從テ政府ノ三銀行ニ対スル權利カ貸付金タルコトヲ前提トスル議論ハ此ノ場合問題トナリ得サルヘシ尤モ本件政府ノ三銀行ニ対スル權利カ貸付金タラサル結果明治四十四年法律第五十八号ノ適用アリトノ議論モアリ得ヘキモ前記法律第四十一号ニ依レハ三銀行ハ支那側ヨリ元利金ノ支拂ヲ受ケタル場合之ヲ政府ニ納付スルノ義務ヲ負担スルニ止マルヲ以テ右法律第五十八号ニ所謂納人無資力云々ノ状態發生シ得ス從テ同法律ノ適用ナキ次第ト解セラル將又三銀行カ政府ノ指揮ニ從フコトナク對支

難ナルヘン

尚又參戰借款等ニ関シ其ノ保有法法律ノ規定ニ基クト否トハ之力放棄ニ付議會ノ同意ヲ要スルヤ否ヤヲ決スヘキ要件ニアラスト存セラル

二、卑見ニ依レハ政府トシテ議會ニ諮ルコトナクシテ西原借款ノ一部放棄ヲ為スカ為ニハ(イ)冒頭貴電(一)(口)末段所述ノ如ク三銀行ニ対シ一億円借款ノ一部放棄ヲ命スルコトハ前記法律第四十一號第八条ノ初メヨリ予想セル所ナリトノ解釈カ又ハ(ロ)西原借款ノ一部ヲ放棄シタルト同様ノ結果ヲ生セシムル趣旨ニテ參戰借款、兵器代借款及交通銀行借款ノ外一億円借款ニ付テモ將來ノ利率ノ低減又ハ償還期限ノ延長ヲ為シ得ヘシトノ解釈ニ依ル外ナカルヘキヤニ思考セラレ種々攻究シ居ル次第

ナルカ右何レノ解釈ニ付テモ未タ大蔵省側説破ノ域ニ至ラサルノミナラス從来債務整理問題殊ニ西原借款ニ關シ議會又ハ樞密院等ニ於テ為シタル政府ノ説明振ニ鑑ミ今日専門家話合ノ「ステード」ニ於テ政府ヲシテ右等解釈ニ拘束セラルルカ如キ態度ヲ執ラシムルコトハ困難ナリト思考セラル加之我方債權ニ関シ犠牲ヲ拂フニ付テハ他國側トノ振合ニ付テモ相當説明シ得ル状況ニ在ルコトヲ要スヘシ

三、要スルニ目下ノ處ニテハ政府トシテ専門家ニ與ヘ得ヘキ裁量ノ範囲ハ矢張リ客年往電公第四五七號(註三)出テサル譯ニテ右以上ノ措置ニ付テハ議會ノ同意ヲ要スル含ニテ話合ヲ進メシムル外ナキ儀ト存スル處若シ議會ノ同意ヲ取付クル建前ナルニ於テハ前記(イ)(ロ)以外ニモ種々ノ解決方法ヲ考慮シ得ヘク殊ニ政府トシテハ西原借款ニ付差別的整理ヲ認メタルコトトナラハ議會又ハ樞密院等ニ対スル關係ニ於テ困難ナル立場ニ立ツヤモ計ラレサルニ顧ミ民間債權ヲ含ム我方對支不確實債權全部ニ亘リ一律ニ閔税會議以後ノ利息ヲ免除スル（閔税會議當時提出ノ我方最終債權表ニ計上セラルル、我方債

編注一 昭和期I第一部第四卷455文書参照。

借款上ノ権利ヲ放棄シタル建前トシ之ニ対シ政府カ三銀行ヲ義務違反トシテ處分スルカ如キ形式モ考慮シ得サルニアラサルモ右ハ余リニ假裝のニシテ三銀行ヲシテ其ノ責任ヲ執ラシムルコト困難ナルヘキノミナラス政府トシテモ前記法律第四十一号ニ依ル指揮監督権ヲ充分行使セサリシトノ責任發生スヘク旁々右ハ實行困難ナルヘン

堀内ヨリノ返事

614 昭和6年1月20日 守島亞細亞局第一課長より
堀内在中国公使館一等書記官宛(半
公信)

曾宗鑑提出の債務整理表に東亜關係の南溝鐵道借款も包含との真偽に關し一報方要請

拝啓一両日前東亜内田來訪シテノ話ニ「最近曾宗鑑アタリヨリ我方に『整理スヘキ債務ノ表』ヲ提出シタル處右表ニ^(付箋)ハ參戰、兵器借款ノ外東亜關係ノ南溝鐵道借款モ包含セラレ居ラサルヤノ趣支那側ヨリ聞込ミマシタ」トノコト仍テ小生ハ

「支那側ヨリ右ノ如キ表ノ提出アレハスグ本省ニ報告アルヘキ筈ニテ貴述ノ次第ハ信シ難シ」

ト返事シテ置キマンシガ内田ハ確カナ所ヲ御取調願ヒ度イトカ何トカ云ツテ居リマンシタ

就テハ右様ノ話力増力何カアルノカ念ノ為メ御一報被下バ幸甚

一月二十日

守島生

堀内兄

615 昭和6年1月24日 渋沢(栄一)日華實業協会会長より
幣原外務大臣宛

債務整理の順位として売掛金・民間実業借款
を優先方請願について

謹啓

對支債權整理ニ關スル件

多年懸案トナリ居レル我力對支債權(賠償金ヲ含ム)整理ニ關スル國民政府トノ御交渉目下進捗中ノ趣仄聞致候處兩

國各般ノ關係ニ鑑ミ是非共此際本懸案ヲ解決シ兩國經濟關係ヲ新タル基礎ノ下ニ置ク事最モ時宜ニ適シタル措置ト存セラレ候間何卒此上トモ御配慮賜ハリ右交渉成立致候様御願申上候

昭和六年一月二十四日

日華實業協會

會長 子爵 澄澤 榮一〔印〕

外務大臣

男爵 幣原 喜重郎殿

追啓 別紙御参考迄ニ從來當協會ニ於テ我力對支債權整理ニ關シ上申仕候書面寫相添ヘ置候間併セテ御覽置被下度奉願候

(別紙)
(支那特別關稅會議ニ對スル上申書ト共ニ差出セル書面)

大正十四年九月二十五日

日華實業協會

一、吾力不確實債務償還ニツキテ

吾力不確實債務整理ニ關シテハ對外的ニハ順位等差ヲ置クコトナク全部一律平等ノ形式ヲ以テ整理セラルルコト止ムヲ得サルト考フルモ對内的ニハ民間實業借款及賣掛代金ニ對シテハ他ノ借款ト區別シテ取扱ハルルコト至當ト思ハルニ依リ支那政府ノ發行スル整理公債ノ形式ニ付テハ其ノ負擔ノ範圍ニ於テ各國ノ自由ヲ

保留シ置キ我邦ニ對スル償還割當總額中假令ハ該公債ヲ數種ニ分チ利率其他ノ點ニ於テ調節シ得ルコトニ特ニ協定セラレ度要ハ民間關係債權金利並二期限ニ對シ格別ノ考慮ヲ拂ハレ速力ニ我當業者ノ資力回復ニ資シ將ニ來ラントスル各國ノ積極的經濟競爭ニ相當彈力ヲ有セシメラレンコトヲ必要ナリト思考致候

一、損害賠償

從來暴動其他ノ不法行爲ニ依リ邦人ノ受ケタル損害ニ對シテハ其ノ賠償額ノ決定セル分ハ最優先的ニ支拂ヲ爲サシムル事

以上

616 昭和6年1月27日 在廣東須磨總領事代理より
幣原外務大臣宛

宋子文の天津行きは中英借款等に關し張學良

より意見聽取するためとの林麗生の内話報告
(2月10日接受)

昭和六年一月廿七日

在廣東 總領事代理 須磨彌吉郎〔印〕

機密公第一八三號

昭和六年一月廿七日

在廣東

總領事代理 須磨彌吉郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿
中英借款說ニ關シ林麗生ノ内話報告ノ件
本件ニ關シ一月十三日附機密公第七九號拙信ヲ以テ及具報置キタル處林麗生カ今般宋子文側近者ヨリ入手セル情報トシテ廿六日當館館員ニ語ル所左ノ通り
一、宋子文ノ天津行ハ表面西北諸省ノ財政整理ノ爲メ等ト傳ヘラルモ實ハ本件借款ニ關シ張學良ト商議スル爲ニシテ蔣介石ハ釐金撤廢後共匪討伐軍隊縮編等ヲ前ニ控ヘ如何ニカシテ本件借款ノ成立ヲ圖ラサルヘカラサル窮狀ニ在ルヲ以テ借款ノ口實タル東北鐵道施設、實業振興並ニ東北、西北諸省ノ財政問題ニ關シ隔意ナキ
學良ノ意見ヲ聽取セシムル爲メ過般急遽宋ヲ北上セシメタル次第ナリ

二、然ルニ學良ハ蔣力本件借款成立ノ上ハ斷然壓倒的地步ヲ占ムルニ至ルヘキノミナラス其ノ理由トシテ東北鐵道施設實業振興乃至移民進展等ヲ算へ居ルモ其ノ實本借款ヲ以テ地方軍閥懷柔ニ充ツル下心ナルヘク果シテ然ラハ山西、西北兩軍閥買收等ハ造作モ無キ次第ニ最近頗ル危惧ノ念ヲ深メタル外實業振興移民政策等ニ

關聯スル所謂兵工政策乃至兵農政策ハ夙ニ學良ノ反對シ來レル關係モアリ旁々本件借款ニ氣乘リセサル趣ニテ宋ハ悄然トシテ南京ニ引返シタリ

尙林ハ當方面一般輿論ハ本借款成立ノ曉ニハ早晚再ヒ戰亂ヲ惹起^(起)スル惧レアリトナシ何レモ右ニ反對シ居ル處中央ニ於テハ贊否ノ論ヲ顧念セス借款成立ニ奔命シ居ルヲ以テ成立未成立ノ問題ハ茲一二週ノ間ニ判明スル旨語リタル趣ナリ

右何等御参考迄報告申進ス

本信寫送附先

代理人、北平參事官、奉天、天津、香港、南京

617 昭和6年2月2日 在英國松平(恒雄)大使、在米國出淵(勝次)大使宛(電報)
宋子文より四國借款團本部アディスに対する
非公式借款申し入れに關し仮国側は借款に応
ずること困難なる意向について

合第七二號(暗、至急)
本省 2月2日後1時25分発

治外法權等ノ問題ニ付国民政府ニ於テ合理的ノ態度ヲ示スコトヲ借款ニ関スル話合進行ノ前提條件トスルノミナラス本邦銀行家トシテハ從來其ノ對華借款カ貸倒レトナリ居ル關係上中國ガ之ヲ整理シテ國際的信用ヲ確立セサル限りナル借款ヲ考量スルコトヲ得サルヘシト思ハル旨述へ置ケリ

二、然ルニ右ニ付テハ當時正金側ニ於テモ何等情報ナク爲念出先ニ電照シタルモ右ノ如キ事實ナシトノコトナリシカ

二十九日ニ至リ突然「ア」ハ在倫敦正金代表者ニ對シ借款團ニ對スル中國側ノ態度ニハ多少變化アルヤニ被認從テ自

分（「ア」）ハ中國鐵道改良建設ノ爲同國政府ノ鐵道收入ノ外支那側ニ於テ同意スルニ於テハ團匪賠償金英國分（約一千百萬磅）ヲ擔保トシ約二千七百万磅ノ國際的起債ヲ爲

ス私案ヲ有スル次第ニ付テ（「ア」ハ本件ニ付テハ中國側ノ提供スヘキ管理方法ノ程度如何カ大問題ナルヘキ旨述ヘタリ）此ノ際右ニ關シ在上海中英公司代表者ヲシテ非公式ニ

中國側ノ意嚮ヲ「サウンド」セシメテハ如何ト思考スル處右ニ付テハ過般渡米ノ際「ラモント」及其後渡佛ノ際「ド

ラショーム」ニモ話シ置キタルニ付本邦團体ニ於テ異存ナ

往電合第七二號ニ關シ

(欄外記入一)
一、本件「アデイス」ノ申出ハ米佛兩國政府當局ノ意嚮ト

異ナルヤニ認メラルノミナラス又恐ラク英國政府ノ態度ヲ反映スルモノニアラサルヘシト思考セラル處

苟クモ本件ノ如キ政治的大借款問題ヲ取扱フニ當リ主要列國間ノ態度一致ヲ缺キ又ハ民國政情現實ノ大勢ヲ顧ミシテ輕卒ニハ動スルカ如キトアラムカ國民政

府ノ對外態度殊ニ法權問題其ノ他ニ及ホス影響測り知

ルヘカラサルモノアルヘシ

二、從來國民政府部内ニ於テハ現實派ト理想派トノ對立關係アリテ最近内外諸般ノ關係上現實派ノ主張重キヲ成スニ至リ其ノ結果同政府ニ於テハ國內ノ建設就中財政ノ確立ノ爲先ツ舊債ヲ整理シ對外信用ヲ恢復シ以テ新タナル借款ヲ起サムトスル堅實ナル方針ヲ執リツツアルコト御承知ノ通リナル處一方尙理想派ノ策動熄マヌ是等一派ニ在リテハ宣傳ニ依リテ國權恢復ノ目的ヲ遂ケムトスルノ傾向著シク財政問題ニ付テモ舊債等ヲ整理スルコトナク一舉ニシテ大借款ヲ贏チ得ムコトヲ夢見ツツアルモノノ如シ然レトモ斯カル方法ニ依ル大借

クハ右ノ趣旨ニテ中英公司代表者ニ訓令スルコト致度尙本件ハ英國政府及中國政府トハ未タ何等談合シタルコトナク單ニ自分一個ノ私見ニ過キサル旨述ヘタル趣ナリ

三、尙正金側ノ情報ニ依レハ交通部ヨリ湖廣鐵道借款團体

通部代表Y. S. Chen二月早々着英スル趣ナリ不取敢

英ヨリ佛ニ轉電ン佛ヨリ聯盟ニ轉報アリタン

米ヨリ紐育ニ轉電アリタシ

618 昭和6年2月4日 在英國松平大使、在米國出淵大使宛（電報）

幣原外務大臣より
別電 二月四日發幣原外務大臣より在英國松平大使、在米國出淵大使宛合第七五号

協調して回答するよう任國當局に内報方訓令

對中借款に関するアデイス申し出に對し列国

別電 二月四日發幣原外務大臣より在英國松平大使、在米國出淵大使宛合第七五号

回答案

合第八四號（暗） 本省 2月4日後9時7分發

款ノ成功ノ望ナキハ多言ヲ要セス從テ此ノ際若シ本件「アデイス」申出ノ如キ提案ヲ爲サムカ徒ラニ右理想派ノ空想ヲ助長シ前記現實派ノ努力ヲ鈍ラスノ結果トナリ啻ニ民國ノ爲ニ謀リテ忠ナル所以ニアラサルノミナラス民國ノ安定建設ヲ庶幾フ列國ノ利益ニモ副ハサル次第ナリ

三、從テ此ノ際列國側トシテ執ルヘキ方針ハ前記現實派ノ努力カ一日モ速ニ緒ニ就キ本件ノ如キ大借款ヲ起シ得ヘキ事態ヲ馴致スルニアリト思考セラレ我方トシテハ右現實派ノ努力成功ノ爲在民國代表者ヲシテ列國代表者トモ接觸ノ上極力協力セシメ居ルコト御承知ノ通りニテ右ニ付テハ此ノ上共列國側ノ協力ヲ希望スル次第ナル處此ノ際民國側ニ於テ借款團ニ對スル誤解ヲ緩和シ來リタルコトハ喜フヘキ現象ナルト共ニ將來ノ新借款ニ對シ望ヲ抱カシムルハ偶々前記眞面目ナル努力ヲ獎勵スルコトモナリ時宜ニ適スト思考シ「アデイス」ニ對シテハ冒頭往電佛國大使ノ談話ニ依ル米佛兩國當局ノ意嚮ヲモ參酌シ正金ヲシテ別電第八五號ノ通り回答セシムル筈ニ付右往電佛國大使ニ對スル本大臣應酬

(欄外記入二)

ノ次第並本電ノ趣旨ヲ詳細責任國當局ニ内報（從來ノ經緯ニ顧ミ本件在本邦佛國大使ニ内報濟）セラレタシ別電ト共ニ訓令トシテ英ヨリ佛ニ轉電シ参考迄ニ佛ヨリ聯盟ニ轉報シ米ヨリ紐育ニ轉電シ「ラモント」辺リニ内報セシメラレタシ

(別電)

本省 2月4日後9時16分発

合第八五號（署）

國民政府ノ借款團ニ對スル態度力緩和シ來リタルコトハ喜フヘキ現象ナルト同時ニ借款團ト國民政府トノ關係ヲ一層密ニスルコトハ望マシキ次第ナルカ其ノ時期方法等ニ付テハ慎重考慮ヲ加フルノ要アルヘシ蓋シ國民政府ニ於テハ近來相當眞面目ニ國內ノ建設殊ニ財政整理ニ依ル對外信用ノ回復ニ向ツテ努力シ居ルヤニ認メラルモ一部ニ於テハ尙斯カル努力ヲ須キス一舉ニシテ巨額ノ借款ヲ起サムコトヲ期スル向モアリ從テ此ノ際苟クモ此ノ空想的傾向ヲ助長スルカ如キコトアラムカ前記折角ノ建設的努力ヲ鈍ラスコトナルヘク右ハ獨リ民國ノ爲ノミナラス民國ノ安定建設ヲ

庶幾フ關係列國ノ爲ニモ得策ナラスト思考セラル加之此ノ際一舉ニ巨額ノ借款ヲ起スコトノ財政的見地ヨリ到底成功ノ見込ナキハ多言ヲ要セサル次第ナリ故ニ借款團側トシテハ右ノ事態ヲ率直ニ民國側ニ披瀝シ刻下ノ急務カ對外信用シツツアル舊債整理等ノ事業相當緒ニ就キタル上ハ借款團トシテモ充分盡力シ得ヘキ旨ヲ民國側ニ知ラシムルコトヲ宜ニ適スト思考セラル就テハ本邦團體トシテハ中英公司代表者力絞上ノ趣旨ニテ民國側ト接觸セラルコトヲ希望スル次第ナリ

(欄外記入一)

二月五日次官ヨリ仏大使ニ話ズミ 大藏大臣了

大藏省ト打合スコト スミ

正金 スミ

大藏省写送付ノコト スミ

在支公使等ニ転電ノコト スミ

(欄外記入二)

二月五日午後仏国大使ニ内話ス（永井）

619 昭和6年2月(5)日 在中國重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

銀相場安定のため英米との間で國際會議必要
およびアディスに対して借款申し入れの事実
なき旨宋子文内話について

上海 発

本省 2月5日後着

第一二一號

コト能ハストテ今日迄自分ノ要求ヲ容レサルモ英國商人一般ハ貿易上ノ打擊ヨリ何トカセサルヘカラサル旨説クモノ多シ）自分ハ之カ爲ニハ國際會議ヲ開クヨリ外無シト考ヘ居ルカ是等ノ點ニ付テ英米等ニ於ケル中國代表者ニ事情報告方訓令濟ナルカ日本側ニ於テモ右等ノ事情ヲ探查シ内報ヲ受ケ得レハ幸ナリ尙自分ノ考ニ付テハ數日中ニ自分ヨリ「メモランタム」ヲ送付スヘキヲ以テ御研究ヲ請フト云ヘリ

(一) 四日宋部長ト會談ノ節同部長ハ銀相場ノ問題ヲ特ニ重要視シ右ハ自分ノ當面スル最大問題ナリト述ヘタルニ依リ本官ハ最近之ニ關聯シテ傳ヘラル銀借款等ノ借款ニ關スル諸説ニ言及シ其ノ真相ヲ尋ネ且借款問題ハ銀價恢復ノ問題トハ別個ノ問題ト考フル處銀問題ニ關スル貴下ノ考ヲ承知シ度キ旨ヲ述ヘタルニ宋子文ハ右兩問題ハ全然別個ノ問題ニシテ銀價ノ問題ニ付テハ一方銀ノ生産ヲ制限スルト共ニ他方銀ノ公定相場ヲ作り之ヲ強制スルヨリ外無ク前者ニ付テハ米國後者ニ付テハ印度ノ銀賣出シニ對シ公定相場ヲ適用スルコト必要ナルカ英國ノ協力ヲ得サレハ實行不可能ナリ（英國政府ハ印度政府ニ強制スル

(二) 其ノ際宋子文ハ所謂銀借款ナルモノハ「ラインバージヤ」ト「ピットマン」ノ練上タルモノニテ右ハ米國ヨリ二億「オンス」ノ生銀ヲ一定ノ比價ニテ貸シ同様ノ比價ニテ返ス案ノ提議ニシテ右ニテ銀價ノ釣上ヶヲ行ハムトスル「シルバーインテレスト」ヨリ出ツルモノナリ右案ハ將來銀價格更ニ下落セハ米國政府ニ於テ夫レ丈ヶ損害ヲ負擔スルコトトナリ反對ニ銀價恢復セハ中國ノ損失トナリ何レニ取りテモ危険ヲ伴フモノナルカ米國ハ右ノ危険ヲ忍フモノナリヤ疑ハシク又中國トシテモ右ノ如キ危険ヲ冒ス次第ニテ右實現可能性ハ無キ次第ナリ何レニシテモ中國政治家ノ策動ニハ因リ居レリト説明セリ次テ本官ヨ

リ右ハ投機的銀借款ノ問題ナルカ中國トシテハ例ノ建設事業ニ種々外國資金ヲ必要トセラルコト當然ナリ最近貴下ヨリ「アジス」ニ對シ借款ヲ申込マレタリトノ説アルカ右ハ事實ナリヤ（貴電合第八〇號參照）ト問ヘルニ宋ハ自分ヨリ借款ヲ申入レタルカ如キコト絶對ニ無キ旨ヲ答ヘタリ本官ハ日本財界カ中國ノ建設事業ニ對シ充分ノ注意ト同情ヲ有シ居ルハ事實ナルカ更ニ米國財界ノ他カ中國ノ事情ニ疎ク對華投資ニ付テハ常ニ日本財界ノ意見ヲ尊重シ居ル事實ハ中國側ニ於テ特ニ注意ヲ拂ハル必要アルコトヲ指摘シ置ケリ

（付箋）
北平、奉天へ轉電シ南京へ轉報セリ

（欄外記入）
大藏省アト

歐米方面へ轉電　スミ
正金ニ電話ノコト　スミ

（付箋）
本電ノ趣旨ハ

第一、今次ノ借款談ノ發端ハ「アディス」側ニアルヲ以テ中長ハ本件ハ國民政府ヨリ直接ノ申出ナキコトハ明カナルカ或ハ同政府側カ間接ニ其ノ邊ノ意向ヲ洩シタルカ少クトモ在支英國借款團代表者ノ發意ニ出テタルモノニアラスヤト思考ス何レニスルモ今日支那ノ政情ニ於テハ擔保無クシテ借款ニ應スルコトヲ得サルハ勿論ノ儀ナルカ左リトテ擔保トスヘキモノナシ關稅收入ヲ擔保トセハ其ノ間接ノ結果トシテ支那側ハ關稅率ヲ引上クルコトナルヘク結局借款ニ應スルコトハ支那關稅增徵ヲ認ムルコトナルヘシ又鐵道收入ヲ擔保ニスルコトハ滿洲以外ニ於テハ支那ノ現狀ヨリ見テ想像シ得サル所ナリ（尤モ同局長ハ團匪賠償金一億ノ取分ヲ擔保トスルコトハ不可能ナラサルヘシト附言セリ）加之世界的不況未タ回復セサルコトニモアリ支那内外ノ狀況ヨリ見テ今日「コンソルシアム」借款ヲ議スルハ時期尚早ナリト思考スト述ヘ居タリ

英米ニ轉電シ米ヲシテ紐育ニ轉報セシム
聯盟事務局ニ轉報ス

英公司代表者ノ接觸ヲ希望ストアルハ少シ變ナリ
第二、今次回答案ノ如キ回答ヲ爲セハ「ア」ハ借款團規約ニ触レサル方法ニテ何等カ支那ニ投資スルコトヲ画策スベク其ノ場合ニハ本邦トシテハ干與シ得サルヘシ、就テハ今次「ア」ノ提議ハ到底實現セサルヘク又實現スルトスルモ其ノ場合ハ細目協定ニ付我方ノ主張ヲ通スコト可能ナルニ付此ノ場合ハ寧ロ主義上同意ヲ表スルコト然ルヘキ哉ト云フニアリ

620 昭和6年2月5日 在仏國芳沢（謙吉）大使より
幣原外務大臣宛（電報）
中国において具体的な担保として鉄道借款等は問題にならず關稅收入以外に無くコンソルシウム借款は時期尚早との意見具申

621 昭和6年2月5日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）
西原借款だけでなく對華債權元利合計全部の中から減額を行ふ方が中國側の他債權国交渉上にも有利と宋子文に申入れについて
第一二〇號（極秘）
往電第八四號ニ關シ
四日宋部長ト上海ニ於テ會見セリ債務整理ニ關シ宋ハ堀内莊ノ話合ニ於テ堀内ハ専門的見地ヨリ西原借款ノ中一億三千萬元丈減額又ハ支拂延期ヲ爲シ得ルモ夫レ以上ハ困難ナリトノ意見ノ趣ナルカ（客年往電公第一二八九號（參照）自分ハ西原借款ニ對スル一般ノ反對ニモ顧ミ右程度ノ減額ニテハ甚々事態困難ニシテ殊ニ銀暴落ノ結果トシテ貿易不振トナリ關稅收入ニ重大ナル惡影響ヲ來シ債務整理促進ニ困難ヲ見ル譯ナリ本官ハ右以上ノ減額ハ國內法規及手續上ノ額ニ達セストモ右一億二千萬以上ノ數字ノ減額方ヲ考慮

シツツアル次第ナルカ全体ノ建前トシテハ西原借款ノミノ減額トセス對華債權元利合計全部ノ中ヨリ或ル程度ノ減額トスル方右額ノ捻出ノ點ヨリスルモ便利ニシテ且又中國側ニ於テ他ノ債權國ト交渉シ同様ノ讓歩ヲ爲サシムル上ニ便タル上ニ非サレハ困難ト思ハル銀相場ノ問題モ去ル事乍ラ債務問題ハ今後交渉ヲ促進シテ差支ナキ次第ナリヤト問ヒタルニ宋ハ勿論交渉促進ノ意嚮ニテ實ハ出來ルナラハ來週早早南京ニ於テ委員會ヲ開キ西原借款ノ問題ニ付テハ其ノ不承認ハ日本側ノ絶對承認セサル處ニシテ債務整理ヲ根柢ヨリ覆ス結果トナルニ付問題トナラサルコトヲ説明シ要ハ日本ヨリ整理ニ付如何ナル程度ノconcession (減額ヲ含ム) ヲ得ルヤカ問題ナリトテ本問題ヲ解決シタキ意嚮ナレハ其ノ結果ハ直ニ報告スヘシト述ヘタリ尙宋ハ整理計畫ノ遂行カ銀價問題ノ爲頗ル困難トナリタリト述ヘ之ニ關シ別ニ電報スルカ如キ話合ヲ爲シタリ

622 昭和6年2月5日 在中國重光臨時代理公使 谷亞細亞局長宛 (半公信)

(別紙)
昭和六年一月二十七日堀内曾宗鑑會談錄
谷亞細亞局長殿
(一)前回會合ニ於ケル堀内ノ質問ニ對シ曾宗鑑ハ一九三〇年關稅收入ノ分析等ニ付左記ノ通り披露シ
A、金單位其ノモノニテ徵收セル額
一六、〇〇〇千金單位 (一七、〇〇〇千上海兩)
B、其ノ日ノ公定比價ニ依リ金單位ニテ徵收セルモノ

E、天津ノ收入ハ閻錫山ノ抑留セル分ヲモ含ム
(註)右ノAハ中央銀行ヨリ金單位ヲ買ヒ之ヲ以テ納稅シタルモノニシテ右ハ金單位ノ貨幣ナキヲ以テ中央銀行ニ於ケル納稅者ノ口座ヨリ海關ノ口座ニ振換ヘルモノナリ

一〇一、〇〇〇千金單位 (一〇五、〇〇〇千上海兩)
C、海關兩ニテ徵收セルモノ (輸出稅)
五八、〇〇〇千海關兩 (五八、〇〇〇千上海兩)

D、常關收入

六、〇〇〇千海關兩

之ニ對シ堀内ヨリ常關稅ヲ加フレハ丁度二億八千萬元トナリ我方ノ推定額ト一致シ又天津海關收入ノ激減ハ内亂ノ爲ナレハ平和トナレハ前記ノ推定額ヨリ多額トナルヘク要スルニ海關收入ノ前途ニ付テハ左程悲觀ヲ要セサルヘシト述ヘ置キタリ。

(二)堀内ヨリ前回話合ノ結果ヲ重光代理公使ニ報告シタルカ公使ハ近ク宋部長ト會見ノ筈ナルモ未タ會見シ得スト述へ又公使ハ全体ノ計畫及銀價ノ問題ヲ研究スルコト必要ナル旨ヲ述ヘ居リタル旨ヲ告ケタリ。

(五)堀内ヨリ交通銀行借款及九六公債包含ノ問題ヲ尋ネタルニ曾ハ交通銀行借款ニ付テハ財政部長及交通銀行總辨トノ間ニ公文往復アリ財政部ノ意向ハ大体決定セルモ債權者トノ間ニ意見一致セリヤ否ヤハ知ラス九六ニ付テハ債權者トノ從來ノ交渉ハ未タ結論ニ達セス債權者ヨリ包含

一月二十七日堀内・曾宗鑑間海關收入問題銀 借款問題等に関する会談錄送付について

(2月16日接受)

拜啓陳者一月十五日堀内曾話合ノ次第ハ堀内書記官ヨリ守島第一課長宛報告セシメ置キタルカ其ノ後一月二十七日ニ於ケル兩人ノ話合要領別紙ノ通何等御参考迄及御報告候間御查閱相成度此段得貴意候

昭和六年二月五日

敬具

重光臨時代理公使

不承認ハ日本側ノ絶對承認セサル處ニシテ債務整理ヲ根柢

ヨリ覆ス結果トナルニ付問題トナラサルコトヲ説明シ要ハ日本ヨリ整理ニ付如何ナル程度ノconcession (減額ヲ含ム) ヲ得ルヤカ問題ナリトテ本問題ヲ解決シタキ意嚮ナレ

ハ其ノ結果ハ直ニ報告スヘシト述ヘタリ尙宋ハ整理計畫ノ遂行カ銀價問題ノ爲頗ル困難トナリタリト述ヘ之ニ關シ別ニ電報スルカ如キ話合ヲ爲シタリ

~~~~~

622 昭和6年2月5日 在中國重光臨時代理公使 谷亞細亞局長宛 (半公信)

(別紙)  
昭和六年一月二十七日堀内曾宗鑑會談錄

谷亞細亞局長殿

(一)前回會合ニ於ケル堀内ノ質問ニ對シ曾宗鑑ハ一九三〇年關稅收入ノ分析等ニ付左記ノ通り披露シ

A、金單位其ノモノニテ徵收セル額

一六、〇〇〇千金單位 (一七、〇〇〇千上海兩)

B、其ノ日ノ公定比價ニ依リ金單位ニテ徵收セルモノ

(三)曾ハ自分ヨリ宋部長ニ報告シ且關稅收入ニ關スル數字ヲ提出シ置キタルモ部長ハ華北地方旅行ヨリ歸來勿々ニシテ十分研究ノ時間ナク昨今漸ク研究シタルヤモ知レサレハ此ノ次會合ノ節ハ話合得ヘシト思フト述ヘタリ。

(四)堀内ヨリ銀借款問題ニ關スル國民政府部内ノ經緯ニ付訊  
ネタルニ曾ハ内部ノ不統一ハ遺憾ナリ、彼等ハAcademicallyニ議論スルノミナルカ財政當局ト異リタル意見ヲ提議アリテ始メテ考量スヘク夫レ迄ハ米國ヲシテ勝手ニ取扱ハシムルノミナリト答ヘ、堀内ヨリ米國ヨリ提議ノ可能性ニ付意見ヲ尋ネタルニ曾ハ米國Silver Interestノ手許ニハ二億トカ十億トカ云フ實際巨額ノ銀ナク又銀行家モ眞面目ニ考ヘ居ラサルヲ以テ可能性ニ乏シト答ヘタリ。

(五)堀内ヨリ交通銀行借款及九六公債包含ノ問題ヲ尋ネタルニ曾ハ交通銀行借款ニ付テハ財政部長及交通銀行總辨トノ間ニ公文往復アリ財政部ノ意向ハ大体決定セルモ債權者トノ間ニ意見一致セリヤ否ヤハ知ラス九六ニ付テハ債權者トノ從來ノ交渉ハ未タ結論ニ達セス債權者ヨリ包含

方何等申出居ラス未タ内外債整理委員會ニテ決定スルノ  
時期ニ達シ居ラスト述ヘタリ  
(六)堀内ヨリ整理案ニ對スル曾ノ意見ヲ尋ネタル二十億金單位ノ新債券ヲ出シ財政部關係ノ借款整理ニ充テ五億金單位ハ鐵道及交通兩部關係ノ整理ニ充テル腹案ナル力前者ハ簡單ニシテ新券ヲ交付セハ舊債消滅スヘキモ後者ニ付テハ毎年一定額ヲ交付スルモ更ニ債務增加スルヤモ知レサレハ右ノ如キコトナキ様十分ノ計畫ヲ協定スルヲ要ス

ル次第ニテ目下董次長ト協議中ナルモ何等決定セス自分ハ今ノ處右ノ新券ヲ鐵道關係ノ一般資金トシ之ニ依リ鐵道ノ改良債務ノ整理ヲ爲シ得ル様具体的の使用方法ヲ決定スル積リナリト述ヘタリ。

(七)銀價問題ニ付曾ハ關稅全部ヲ金單位ニ改メ度シト考フルモ稅關側ニテ如何ニ取扱フヤ未定ナリ夫レ迄ハ銀收入ヲ内債支拂ニ充當シ度キ考ナリト述ヘタリ。

(八)各國トノ債務整理交渉狀況ニ關シ曾ハ左ノ通り述ヘタリ伊國總領事ヨリ本件ニ付宋部長ト談合ノ希望アリシモ未タ會見ノ運ニ至ラス。又 Rosenthal 上海ニ來レルカ今回宋部長滯滬中部長ト會見ヲ約シ居ラス而モ伊國ノ債務

整理ハ複雜ニシテ整理資金ヲ明示スルコト不可能ナリ  
米國側ハ態度呑氣ニシテ新借款ヲ中國ニ供與シ其中ヨリ何等ノ減額ヲナサスシテ從來ノ不確實債務ヲ差引ク考ナルヤニ認メラルモ餘り乘氣ナラス只今ノ處ニテハ右新借款供與ノ實現方モ眞面目ニ考量シ居ラス時期ヲ待ツ意向ノ如シ英國側ハ民間側力乘氣ニテ中英公司及湖廣ノ代表者カ關係鐵道ノ整理ニ付意見ヲ述ヘ居レリ

#### (欄外記入)

一般債務整理ノ為十億金單位、鐵道債務整理ノ為五億金單位ヲ發行スル意味ナラン（客年同代理公使來電公第一二八九号参照）

623

昭和6年2月(8)日 在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

國民政府内部において胡漢民等理想派が銀借款を推進して宋子文等現実派を圧迫の状況につき報告

本省 2月8日後着  
上海 発

#### 第一二二號

一、中國一般ノ狀況ハ之迄報告ノ分（客年往電公第一〇〇七號、第一〇五六號及公第一二七八號）以來格別差異ナシ北方ニ於ケル内亂ノ後始末及張學良トノ關係引續キ異狀ナク又廣西問題漸次解決ノ途ニ就キ居ル外四川ノ問題モ今直ニ重大性ヲ帶フル様ニモ見エス長江筋ノ共匪討伐ニ付テハ進捗思ハシカラサルニ依リ何應欽愈南京ヲ出發シ之力促進ヲ計リツツアルモ之亦夫レ自体大局ヲ支配シ得ル問題ニアラス先ツ以テ大体小康狀態ヲ持續シツツアル次第ナリ

二、南京政府内部ノ狀況モ既報ノ通ニシテ別ニ異狀ヲ認メサルカ最近ニ於ケル勢力爭ノ内情ヲ摘記スレハ左ノ如シ

胡漢民ヲ中心トル理想派ハ立法院及黨部ノ一部ヲ根城トシ純然タル文治政治ヲ希望シ蔣介石ノ勢力ヲ出來得ル丈ヶ制限シ之ヲ軍隊方面ニ局限セント努力シ居レリ彼等ハ實力派ノ中心ニシテ蔣介石ノ權威ノ後楯タル宋子文ノ勢力ヲ驅逐スル爲彼ヲシテ孤立無援ノ地位ニ置カソコトヲ企圖シ居レリ而シテ其ノ勢力ノ失墜ノ爲

二ハ凡ユル機會ヲ見逃サス現ニ胡等ハ立法院ノ職權ヲ楯トシテ行政院殊ニ財政部ヨリノ提案ニ對シテハ關稅稅率統一稅等問題ノ如何ヲ問ハス完膚ナキ迄ニ批評シ且修正ヲ加ヘ居レリ又對米借款問題ノ如キニ付テハ財政部ヲ差措キテ非公式ノ「エージェント」「ラインバーガー」ヲ米國ニ派遣シ宋子文ノ執ラムトスル現實的ノ方法ニ依ラス且財政部長ノ力ニ賴ラスシテ之カ實現ヲ期スルコトニ努メ頻リニ銀借款熱ヲ煽リ若シ宋子文ニシテ之ニ反對セムカ之カ破壞ノ責任ヲ宋ニ着セ又若シ何等力ノ形ニテ成立スル場合ハ其ノ功ヲ自分ニ取ラムトル狀況ナリ而シテ胡一派ハ常ニ理論ニ立籠リ極端ナル國權擁護及回収ヲ企ツルコト依然タリ（南京政府ノ法令力多ク此ノ意味ニ出ツル原因ナリ）右ノ傾向ヲ迎ルモノハ勿論王寵惠ノ如キモ胡一派ニ操縱セラレ孫科ノ如キモ同様ト見ラル

三、要スルニ南京政府ノ弱點ハ制度ノ上ニ於テ人物ノ上ニ於テモ嚴格ニ統一シ居ラス各人各様ノ慟キヲ爲シ自己ノ權勢ノ擴張ニ努ムルノ點ニアリ外交問題ハ勿論財政問題ニ於テモ各人各自己ノ立場ヲ主トル傾キアリ交

通部長ハ自己ノ管轄スル電信電話等ノ事業ニ於テ（大北トノ借款返済ノ爲ト稱シ米國「ブレーイア」會社ト電線ノ「モノボリー」ヲ條件トシテ借入レ交渉ノ進捗中ナリトノコトナリ）又航空事業ニ於テ鐵道部長ハ運轉材料買入レハ勿論鐵道建設ノ資金調達ノ爲頻リニ英米等ト折衝シ何レモ聯絡ヲ賴リテ外國側ト交渉シ銀借款ノ問題ニ付テモ當局者ニ非サル立法院長司法院長實業部長等公然意見ヲ公表シ居ル狀況ナリ（黃郛ノ批評（二月六日談）ヲ以テスレハ現在政府ノ組織及制度ハ何人モ責任ヲ取ラスシテ然モ各人勝手ニ何レノ仕事ヲモ爲シ得ル仕組トナリ居レリ）是等不統一ノ狀況ハ外國側ノ利用シ且乗スル處ニシテ其ノ間ニ幾多ノ弊害ノ伴フコトモ想像ニ難力ラス要スルニ内亂後ノ建設的政策ハ政府ニ於テ眞ニ中樞タル人物出テ斯理想的傾向ヲ有スル極端派ト現實的傾向ヲ有スル穩健派トノ混合ト各人ノ立場及勢力ニ立脚セムトスル分離行動トノ爲ニ著シク障礙ヲ受ケツアリト云フヘク外國側ニ於テ如何ニ是等勢力ノ指導ヲ行フカモ將來ニ於ケル政況ニ影響スル處鮮カラサル次

居レリ）<sup>(3)</sup>又現在政府ノ組織及制度ハ何人モ責任ヲ取ラスシテ然モ各人勝手ニ何レノ仕事ヲモ爲シ得ル仕組トナリ居レリ）是等不統一ノ狀況ハ外國側ノ利用シ且乗スル處ニシテ其ノ間ニ幾多ノ弊害ノ伴フコトモ想像ニ難力ラス要スルニ内亂後ノ建設的政策ハ政府ニ於テ眞ニ中樞タル人物出テ斯理想的傾向ヲ有スル極端派ト現實的傾向ヲ有スル穩健派トノ混合ト各人ノ立場及勢力ニ立脚セムトスル分離行動トノ爲ニ著シク障碍ヲ受ケツアリト云フヘク外國側ニ於テ如何ニ是等勢力ノ指導ヲ行フカモ將來ニ於ケル政況ニ影響スル處鮮カラサル次

居レリ）<sup>(3)</sup>又現在政府ノ組織及制度ハ何人モ責任ヲ取ラスシテ然モ各人勝手ニ何レノ仕事ヲモ爲シ得ル仕組トナリ居レリ）是等不統一ノ狀況ハ外國側ノ利用シ且乗スル處ニシテ其ノ間ニ幾多ノ弊害ノ伴フコトモ想像ニ難力ラス要スルニ内亂後ノ建設的政策ハ政府ニ於テ眞ニ中樞タル人物出テ斯理想的傾向ヲ有スル極端派ト現實的傾向ヲ有スル穩健派トノ混合ト各人ノ立場及勢力ニ立脚セムトスル分離行動トノ爲ニ著シク障碍ヲ受ケツアリト云フヘク外國側ニ於テ如何ニ是等勢力ノ指導ヲ行フカモ將來ニ於ケル政況ニ影響スル處鮮カラサル次

第ナリ本官ハ主トシテ現實派ニ依リテ仕事上ノ便宜ヲ得ルト共ニ彼等ノ穩健政策ノ助長ニ努メ他方理想派トノ好感ヲ繋キ彼等ヲシテ我方ニ好意ヲ表セシムルニ努力シ居レリ

北平、奉天へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ

624  
昭和6年2月8日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

#### 債務整理・借款問題に対する各国の態度を報告

第一二二号 上海 2月8日前後着 本省 2月8日後着

<sup>(1)</sup>債務整理乃至借款問題ニ對スル當方ヨリ見タル各國ノ態度ハ累報ノ通ナルカ其ノ後ノ模様左ノ通  
一、債務整理問題ニ付テハ中國側ハ引續キ宋子文一手ニテ秘書長曾宗鑑ヲ用ヒ各國ト交渉ヲ進メ居レリ整理委員會ノ王寵惠委員長及他ノ委員ニハ何等協議セサル爲相當感情ノ疎隔アル位ナリ伊國ハ日本ニ次ク債權國トシテ本件ニ重キヲ置キ特ニ本國政府ニ聯絡アル上海總領

事（「ムソリニ」ノ女婿ナリ）ヲシテ交渉ノ任ニ當ラシメ北京關稅會議當時其ノ衝ニ當リタル「ローゼンタール」モ二週間程前上海ニ來着シタリ伊國トノ交渉モ相當困難多キ様子ナリ其ノ他ノ各國ハ利害關係重要ナラス米國ノ如キハ他日行ハルヘキ對華借款中ヨリ債權ヲ差引クヘシト唱ヘタルモノモアル趣ナリ

二、特ニ注意ヲ要スルハ英國ノ態度ニシテ英國カ鐵道借款ニ重キヲ置キ北京會議以來其ノ優越的取扱ヲ主張シ居ルハ御存シノ通ニシテ北京會議流會以來英國ハ海關制度ニ對スル方針ト共ニ債務整理ニ對スル方針ヲ變更シタリト見エ

債務整理ノ問題ニ興味ヲ取ラス自己ノ債權ハ主トシテ鐵道債權ナルヲ以テ鐵道ノ建設及改善ニ依リテ其ノ債權ヲ確保セシコトヲ計リ團匪賠償金處分交渉ニ當リテモ此ノ點ニ重キヲ置キタルコトモ御存知ノ通ニシテ支那側ノ鐵道建設熱ヲ煽り着々此ノ方向ニ計畫ヲ進メツツアリ債務整理ノ問題カ日本トノ間ニ急進シタルハ寧ロ彼等ニハ期待セサリシ所ナルハ勿論ニシテ本問題ニ關シ我方トハ大分立場ヲ異ニスルモノアリ

三、最近借款問題ノ論セラルニ當リテモ英國カ對華貿易擴張等ニ焦リ居ル折柄賠償金鐵道債權擁護ノ方面ヨリ借款問題ヲ取扱フニ至ルヘキコトモ又當然ナリ「アデイス」ノ提案ナルモノハ右ノ趣旨ニ出テ居ルコト想像ニ難カラサル處中國側ニ於テハ往電第一二一號ノ如ク個々別々ノ行動ヲ取ル狀況ナルニ付何人カ之等ノ計畫ニ贊成シタルヤモ知レサルモ宋子文ノ言明ニ依ルモ責任アル者ヨリハ英國側ニ「アプローチ」シタルコトナキハ事實ナルヘシ要スルニ米國其ノ他ノ借款團ニシロ英國側ノ提案ニシロ寧ロ中國ノ現狀ヲ利用シ不景氣ノ打開ノ爲ニ

四、中國側ニ於テハ宋子文等ハ銀借款ノ所謂投機的方法ニ依ラス債務整理ヲ行ヒ日本財界ノ裏書ヲ得テ米國ノ信用ヲ恢復シ以テ建設的事業ニ對スル借款ヲ得ントスル

政策ヲ執リ居ル次第ニシテ本官等ハ借款ヲ得ル前提ト  
シテハ債務整理ヲ行ヒ日本財界ノ信用ヲ得ルニアラサ  
レハ日本ニ多大ノ投資ヲ爲シ居ル資本家ハ中國ノ事情

ニ暗ク日本財界ノ意見ニ依リテ始メテ借款ヲ引受クル  
コトトナルヘキ所以ヲ説明シ中國ノ希望スル借款ハ日  
米及英財界ノ意見交換及一致ノ上ニアラサレハ成立セ  
サルヘキ所以ヲ力説シ居ル次第ナリ

何レニスルモ米國及英國方面ニハ常ニ我方ノ態度ヲ説示シ  
テ之ニ矛盾ナキ方針ニ出テシムル様指導スルノ要アルヘシ  
氣付ノ儘

北平、奉天へ轉電シ南京へ轉報セリ

編注「計」の後に「ラ」と書き込みあり。

625 昭和6年2月9日 在パリ澤田(節藏)連盟事務局長より  
幣原外務大臣宛(電報)

ラモント、アデスおよび英米当局は有効な管理方  
法がなければ対中借款に応じない旨一致意見なる  
等とのアブノルの杉村公使への内報について

ハ在瑞西「ウイルソン」公使ヲ介シ米國政府筋ト能フ限り  
ノ聯絡ヲ保チ居ル由ナリ)

四、借款團力<sup>(註)</sup>駐英公使ヲ通シ最近策動シ初メタルハ時期尚

早ト言フヘク「ラモント」等カ此ノ際輕擧スヘキコトハ到底想像シ得サルモ聯盟經濟部長「ソルター」カ在上海英國當業者等ノ口ニ乗リ萬一借款團ニ利用セラル様ノコトアラハ將來ニ於ケル聯盟ノ對支活動ニ累ヲ及ホスコトナシトセス此ノ點ハ秘ニ憂慮シ居レリ云々

在英米大使ニ轉電シ在佛大使ニ轉報シ米ヨリ紐育ニ轉報セシム

編注「駐英公使」の箇所に「中英公司」と書き込み訂正  
あり。

626 昭和6年2月14日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

ソコルスキイが渡米途中に立ち寄ると思われ  
るにつき西原借款整理の必要性を説明する準備が必要について

#### 第一四號

對支借款問題ニ關シ六日「アブノル」ハ杉村公使ニ對シ大  
要左ノ通語レル旨同公使ヨリ内報アリ御参考迄電報ス

一、先年支那出張後「ラモント」「アデイス」及英米當局  
ト意見交換ノ際有效ナル管理方法ナクハ對支借款ニ應シ得  
ストハ彼等一致ノ意見ナリシカ今日ニ至ルモ右意見ニ變化  
アルヲ認メス然レトモ南京政府及支那輿論力外國ノ管理ヲ  
極力排除セントスルコトモ公知ノ事實ナルヲ以テ借款團關係者ト雖結局國際聯盟ニ管理ヲ依頼スルノ外ナント思考ス  
二、聯盟カ右管理方法ヲ講スルニ當リテハ第一ニ支那側ヲ  
シテ信ヲ聯盟ニ置カシムルヲ要シ第二ニ對支投資ヲ目的ト  
スル特許會社ノ如キモノヲ設立シ同會社ヲシテ必要ニ應シ  
小出シニ支那側ニ資金ヲ交付セシメ且各場合ニ於ケル元利  
償還ノ保證ヲ充分確保セシムルノ方法ニ依リ間接且確實ナ  
ル管理ヲ實施スルヲ適當トゼン

三、聯盟ニシテ愈々對支借款問題ニ手ヲ付クルコトナラ  
ハ米國側カ聯盟ト協力スヘキハ殆ド確實ナリ(「アブノル」)

上海 2月14日後発  
本省 2月14日後着

#### 第一四七號(極秘)

一、債務整理問題ニ關聯シ宋子文ノ旨ヲ受ケ米國ニ旅行シ  
約二ヶ月程前歸來セル「ソコルスキイ」ノ當時ノ意見  
ハ客年往電公第一二四八號ノ通ナルカ同氏ノ「中國今  
度ノ建設事業ノ爲ノ外資輸入ハ中國ノ國際信用ヲ回復  
スルヲ前提トシ右ノ爲ニハ外債整理ヲ爲スヲ要シ而シ  
テ外債整理ノ爲ニハ整理公債ノ發行ヲ必要トス右公債  
ノ發行ハ紐育倫敦「アムステルダム」等ノ市場ヲ考量  
スヘキモ之等特ニ米國ニ於ケル公債ノ發行ハ日本財界  
ノ證言ナキニ於テハ不可能ナリ依テ日本ヲ含ム主要國  
ノ財界代表者ニ於テ支那ノ提供スル財源ヲ擔保トシテ  
整理公債ノ發行ヲ協議スルコトシタシ右ノ爲ニハ先  
ツ以テ舊「ヨンソルシアム」ノ解體ヲ行ヒ各國ニ於テ  
代表銀行(又ハ會社)ヲ選ヒ右ヲ中國財政部ノ「ファ  
スカルエゼント」ニ任命シ(中國ノ面目ヲ立ツル意味  
ニ於テモ)之等各國代表銀行(會社)(中國側銀行ヲ  
モ含ム)ハ一定ノ所ニ協議ヲ開キ

銀暴落防止状況並び中國への財政顧問推薦に  
つき回示方要請

**編注** 「證言」の箇所に「承認?」との書き込みあり。

昭和6年2月14日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

二、宋子文ニ對シテハ本官ヨリ債務整理ノ問題ニ付テハ銀  
借款問題等種々ノ宣傳行ハレ居ル際大綱ニテモ南京政  
府ノ要部特ニ整理委員等ノ諒解ヲ得置クヘキ旨ヲ直接  
間接勧説シ居リタルカ宋ハ最近蔣介石等ニ協議ヲ爲シ  
ツツアル様子ニテ往電第一一〇號ノ措置ヲ本官ニ約束  
シタル次第ニテ即チ宋ハ日本側ハ本件債務問題ニ對シ  
テ中國側ニ好意ヲ表スル充分ノ用意アル模様ナルモ西  
原借款ノ整理ヲ認メスシテハ絕對ニ進行不可能ナル所  
以ヲ説明シ整理大綱ニ對シテ交渉進行方ヲ協議シタル  
筈ナリ

三、宋子文ハ「ソコ尔斯キー」ニ對シテハ諸種ノ事情ノ爲  
其ノ希望(速ニ米國ニ返リテ準備ヲ爲シ度シトノ)ニ  
對シ永ラク何等指令ヲ與ヘサリンカ十日ニ至リ南京ヨ  
リ(宋子文ハ上海歸來ヲ延期セリ)前記一ノ趣旨ヲ以  
テ「ソコ尔斯キー」ノ考案ヲ本官ニ内話スルコトヲ許

四、「ソコ尔斯キー」力前記ノ經緯ヲ本官ニ内話シタル際  
債務整理ノ最難關ハ英國側力賣掛代金ヲ主トスル債權  
ノ全部ニ付テ満足ヲ要求セル點ニアリ之等ハ英國ノ國  
情モ異リ實際賣掛代金ハ政治借款ヨリ稍優先的ニ認ム  
ル必要アルヘシ等ノ議論アリト述ヘタルニ付本官ハ  
「ソコ尔斯キー」ニ對シ詳細且嚴格ニ反駁ヲ加ヘ置キ  
タリ尤モ整理公債發行ト言フカ如キ考案ニテ進ムノ必  
要アルニ於テハ英國ニ於ケル公債發行ヲモ顧慮スル必  
要アリ

五、「ソコ尔斯キー」ノ考案ノ如キ整理公債ヲ世界ノ市場ニ發行ス  
ルコトハ債務整理ノ一方法ナルモ自分ハ右カ果シテ名  
案ナリヤヲ疑フ次第ヲ説明シ置キタリ

ノナルモ同氏ニ於テ責任ヲ有スル譯ニアラサルニ付本

付記 昭和五年十二月六日発在中国重光臨時代理  
公使より幣原外務大臣宛公第一一八七号電  
報  
財政顧問として中國側希望に応ずる人物至  
急推薦方要請  
上海 2月14日後発  
本省 2月14日後着

第一四八號

宋子文ハ目下大問題ハ銀問題ナリト述ヘ居ル狀況ナルカ銀  
ノ暴落ハ政府ノ收入就中各種ノ稅收(關稅ノミハ金建ナリ)  
及鐵道收入ノ大減額ヲ來シ鹽稅擔保鐵道收入擔保ノ金貨外  
債ノ支拂ニハ一層困難ヲ感スルノミナラス債務整理ノ問題  
ニ直接影響ヲ受クル次第ナリ銀暴落防止ノ爲ノ國際會議案  
金貨幣制度ノ問題等貿易促進ノ見地モアリ中國ノ外各國側  
ニ於テ考慮セラレサルヘキ狀況ナリ(之ニ關聯シ豫テ具申  
シアル我顧問ノ推薦ノ件ハ如何ニ御進行アリヤ御回示ヲ煩  
度シ)御參考迄北平、奉天へ轉電シ南京、上海へ轉報セリ

シ今時ニ「ソコ尔斯キー」ニ於テ宋子文ノ明確ナル指  
令ニ基キ遠カラス米國ニ出立シ途中日本ノ了解ヲ得ル  
爲十日餘日本ニ滯在スルノ件ヲ指令シ來リタル趣ナリ  
「ソコ尔斯キー」力前記ノ經緯ヲ本官ニ内話シタル際  
債務整理ノ最難關ハ英國側力賣掛代金ヲ主トスル債權  
ノ全部ニ付テ満足ヲ要求セル點ニアリ之等ハ英國ノ國  
情モ異リ實際賣掛代金ハ政治借款ヨリ稍優先的ニ認ム  
ル必要アルヘシ等ノ議論アリト述ヘタルニ付本官ハ  
「ソコ尔斯キー」ニ對シ詳細且嚴格ニ反駁ヲ加ヘ置キ  
タリ尤モ整理公債發行ト言フカ如キ考案ニテ進ムノ必  
要アルニ於テハ英國ニ於ケル公債發行ヲモ顧慮スル必  
要アリ

整理公債ノ各國ニ對スル割當額ヲ協議決定スル様ニシ  
中國側ハ擔保財源ヲ關稅收入ヨリ提供シテ其ノ他細目  
ハ右各國財業者ニ於テ協議決定スルコト然ルヘシ右ノ  
爲ノ準備ハ時期ヲ逸セサル爲遲滯ナク行フノ要アリ

## 双方中国側に交渉ありたき旨請願

昭和六年二月十七日

上 海 12月6日後発  
本省 12月6日後着

## 公第一一八七號（極秘）

中日實業株式會社

副總裁 高木 陸郎〔印〕

五月宋子文ニ會ヒタル時本官ヨリ五月貴下ヨリ財政顧問ノ

足ルコトヲ要ス右ハ北京政府時代ノ顧問ト異リ完全ニ自分

ノ手助ヲシテ貰ヒ得ル人ニシテ之ニ對シテハ充分ノ手當ヲ

供スル積リナリ傭聘ノ上ハ日本政府ト何等ノ關係ナキコト

トシタシト述ヘ居タリ此事ニ付テハ長イ間ノ問題ニテモア

リ又將來中國財政改革ノ中心タル貨幣問題ヲ主トシテ擔任

スル譯ニテモアリ日本側ノ關スル所非常ニ多キヲ以テ成ル

ヘク速ニ此ノ希望ニ應スル人ヲ推薦セラルコトト致度シ

外務大臣 男爵 幣原 喜重郎閣下

拜啓

山東省實業借款ニ關シ請願ノ件

陳者弊會社ハ大正七年九月一日日本興業、臺灣、朝鮮三銀行出資ノ下ニ山東省政府ニ對シ同省實業調査資金トシテ日金參百五拾萬圓ヲ貸付致候處同省政府ハ其後契約所定ノ償還ヲ怠リ數回ニ亘リ延期ノ申出アリ其都度續約ヲ訂結致候而シテ現契約ハ去ル昭和二年二月末日ヲ以テ期限満了ト相成候ニ付豫テ同省政府當局ニ對シ全額完済スル力若クハ從前通り延期契約ヲ締結シ既定ノ月賦金ヲ支拂ハレ度旨交渉罷在候處其後南京國民政府ノ基礎定マリ山東省政府主席ニ陳調元氏同財政廳長ニ袁家普氏任命セラレタルヲ以テ茲ニ從來ノ要求ヲ更ニ繰返シテ申出デ交渉ヲ重ね候處同省政府ハ該借款ヲ中央政府ニ移管セントシタルモ中央ハ地方の問題

628 昭和6年2月17日 中日實業株式會社高木（陸郎）副總裁より  
幣原外務大臣宛暫行的弁法として山東省区域内の日本人居留  
民が納付する一切の税金を中日實業側にて徵

題トシテ省政府自体ニテ責任ヲ以テ整理スベキ様發令シ中央ノ本借款ニ對スル方針決定シ居レルニモ不拘山東省政府當局（其後韓復榘氏主席ニ王向榮氏財政廳長ニ更迭アリタリ）ハ依然トシテ中央移管ヲ主張シ中央トノ間ニ押問答ヲ續ケ責任回避ノ態度ヲ執リ今以テ契約更改具体的の解決ヲ見ルニ至ラザル次第ニ有之候

本件交渉ニ付テハ豫テ濟南駐在總領事西田畊一殿ニ事情ヲ具申シ省政府當局ニ對シ御交渉相願ヒ居リ候間同總領事殿ヨリノ御報告ニテ御了承ノ事ト奉存候尙弊會社ハ豫テ達貴聞居候通借款利報（電話借款壹千萬圓山東省借款參百五拾萬圓ニ對スル利報收入）ニヨリテ維持致居ル關係上同省政府

府ガ數ヶ年ニ亘ル元利不拂ニヨリ會社ノ存立ヲ脅サルヽト共ニ本借款出資銀行團ノ迷惑モ亦不尠次第ニ御座候

（欄外記入一）

担保

○山東省貨物稅 牲畜稅 屠宰稅 牙稅 契紙價 註冊費

○膠濟鐵路貨物稅 財政廳金庫券

○ハ今回廢止セラレタル等

（欄外記入二）

居留民ノ税捐納付ヲ默認スル場合ニハ之ニ付政府ヨリ交渉スシ居ル現狀ニ於テハ此上何時迄待ツモ果シ無之ヲ以テ此際

本借款擔保各種稅捐ノ收入一切ヲ當社ニテ管理實行スルコトヽシ差當リ山東省政府トノ間ニ根本整理方針確定ス

ル迄ノ期間暫行的辦法トシテ山東省政府ノ管轄區域内ニ於ケル日本居留民ヨリ納付スル一切ノ稅捐ハ總ベテ之レ

629 昭和6年2月20日 在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

宋子文が外國との内交渉促進の予定、孫科が  
西原借款に触れたことに当惑と談話について

条件で貸付けると思われずと観測との満鉄上  
海事務所の聞き込みについて

南京 2月20日後発  
本省 2月20日後着

上海  
本省 2月23日後着

上海  
本省 2月23日後着

第一七一號（極秘）

十九日宋部長ニ面會シ債務整理問題其ノ後ノ事情ヲ尋ネタルニ宋ハ先週整理委員會ヲ開キ最近迄ノ經過ヲ大體説明シタルモ何等決定ニ至ラサリシカ其ノ後政府首腦部ニ對シ各個ニ自分ノ考案ニ付了解ヲ求メ居ル次第ニ日本トノ話合ハ勿論外國ニ對シテモ漸次内交渉ヲ促進スルヲ得ル積リナリ然ルニ孫科ハ先週末上海ニテ債務整理問題ニ對スル外國ノ態度ニ付委員會ニ於テ得タル智識ヲ基トシ新聞記者ニ發表スル處アリ（別ニ電報ス）西原借款ニモ觸レタル爲南京ニモ轉報サレ大イニ當惑シ居ル次第ナリト語レリ

上海、南京ニ轉報セリ

630 昭和6年2月23日 在上海村井總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

銀借款案に關し中國交通兩銀行側は米国が好

ハ思ヘス兔ニ角差當リ斯ル大口ノ借款ハ到底モノニナラサルヘシト觀測シ居ル趣ナリ

公使ヘ轉報シ北平、奉天、南京へ轉電セリ

631 昭和6年2月23日 幣原外務大臣より  
在濟南西田總領事宛

山東省實業借款整理に關し中日實業側をして  
交渉させると共に貴官も側面から援助方訓令  
亞一機密第一五號

昭和六年二月二十三日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在濟南

總領事 西田 畔一殿

山東省實業借款整理ニ關スル件

本件借款ニ關シテハ一月十七日附機密第二五號貴信ヲ以テ中央ニ於テ之ヲ整理スルコトハナリタル旨御申越アリ右ハ當時中日側ニモ移牒シ置タル次第ナル處今般同會社側ヨリ本件借款ニ關シ中央ト省政府間ニ於テ責任ノナスリ合ヒヲ為シ居ル現状ニ顧ミ此ノ上何時迄待ツモ果シナキニ付此ノ

第六九號

廿三日ノ當地新聞ハ「ピットマン」銀借款案ニ關シ林康侯ハ米國ト雖恐ラク確實ナル擔保無キ大借款ニハ應セサルヘシト思ハル處中國銀行界ハ現下政府所要ノ建設的資金ニ對シテハ猶引受ノ力量アルニ付態々外債ヲ募ルニモ及ハサルヘシ尤モ一旦對米借款成立セハ今後ハ中國銀行界ト政府トノ公債及借款ハ自然減少スヘキニ付我等ハ歡迎セサルニ非サルモ右借款ノ償還條件等ハ國民全体ト重大關係アルニ付慎重考慮ノ要アルハ勿論ナルカ何レニスルモノ本問題ハ五月ノ國民會議迄ニハ實現セサルヘシ云々ト述ヘタル旨報セリ

尙當地滿鐵側ニテ中國交通兩銀行側ノ意見ヲ聞キタル處共ニ國民政府ノ財政甚シク逼迫シ借款ノ希望アルハ事實ナルモ米國資本家從來ノ態度ニ鑑ミ殆ト擔保物ヲ有セサル中國政府ニ對シ世上传フルカ如キ好條件ニテ貸シ吳ルモノト

國際本件借款担保各種税捐ノ收入一切ヲ同會社ニテ管理スルコトハシタク差當リ山東省政府トノ間ニ根本整理方針確定スル迄ノ間暫行的辦法トシテ同省政府ノ管轄區域内ニ於ケル本邦居留民ノ納付スル一切ノ税捐ハ同會社ニテ之ヲ徵收シ得ル様支那側ニ交渉アリタキ旨別紙写ノ通り請願ノ次第アリタリ然ルニ本邦居留民ノ納付スル税捐中本件借款ノ担保トナリ居ラサルモノ迄ヲモ中日側ニ於テ管理セムトスルハ妥當ナラサルヤニ被認ノミナラス本件借款ノ担保トナリ居ル税捐ニ付テハ從來政府ニ於テ不當課税トシテ抗議シ来る行懸アリ本邦居留民ニ於テ之ヲ納付スルハ政府トシテ之ヲ默認シ居ルニ過キサル次第ナルヲ以テ中日側ヲシテ之ヲ管理セシムル様支那側ニ交渉スルハ面白カラスト思考セラレ旁々此ノ際トシテハ貴地中日代表者ヲシテ前記中日側願出ノ「ライン」ニ依リ支那側ト交渉セシムルト同時ニ一方貴官ヨリモ支那側ニ對シ本件借款ニ關シ中央ト省政府トノ間ニ責任ノナスリ合ヒヲ為スカ如キコトナク誠意ヲ以テ整理ニ尽力シ中日側トノ間ニ何等カノ弁法ヲ以テ妥結ニ達スル様嚴重御交渉相成リ以テ右中日代表者ノ交渉ヲ側面ヨリ促進スルコト時宜ニ適スト思考セラルルニ付テハ右御含

ノ上可然御配慮相成度此段申進ス

本信寫送付先 代理公使、北平、南京、青島

(別紙寫作成ノ上添付ノコト)

(寫中日実業ヘモ送付ノコト)

當リ左ノ程度ニ觀測セラル

一、内國債ハ長期(三〇年)ノ外債(米國方面ヲ考フ)ニ  
借換ヘ之ニ依リテ生スル現存短期内債支拂ノ解除額ハ一般  
政費ニ充當ス

632 昭和6年2月27日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

宋子文による債務整理は銀借款問題および反  
対派策動等のため進捗していない状況報告

上 海 2月27日後発  
本 省 2月27日後着

第一九〇號(極秘)

債務整理ノ交渉モ宋子文ニ於テ四圍ノ關係ニ迫ラレ思フ通  
リニ進捗セシメ得ス特ニ銀借款問題及宋反対派ノ策動等ノ  
爲眞相ノ一般ニ判明スル時期ヲ俟ツト共ニ一方内部關係ニ  
於テハ政府部内ヲ個別ニ説明シツツアル趣ナリ他方曾宗  
鑑ハ整理案ヲ作成シ財政部長ニ提出シタル由ナリ然ルニ廿  
五日宋子文ノ財政及債務整理ニ關スル説明ヲモ綜合シテ當  
方ニテ研究シタル結果中國側ノ有スル債務整理ノ腹案ハ差

二、外債ハ元利金ニ付最大ノ讓歩ヲ要求シ大体團匪賠償金  
等現在ノ關稅擔保外債ノ解除額(之ニ毎年五百萬ノ積立額  
ヲ加ヘ)ヲ以テ右整理資金ニ充當ス

此ノ案ニ依ル整理計畫ヲ推算スルニ大体ニ於テ右整理資金  
(一九三二年起算)二十九ヶ年分ヲ加算スレハ二十五億ト  
ナリ外債元利金額ヲ二十億ト見其ノ三割ヲ減額シ十四億ト  
假定スレハ之ニ右整理資金ヲ當嵌ムル時ハ約年平均四分ノ  
單利トシ元利償還ハ十八年目ヨリ初マリ三十年目ニテ完了  
スルコトトナル尤モ最初ノ十ヶ年ハ解除額極メテ少ナキヲ  
以テ利息支拂額從テ少ナク(曾宗鑑力最初ハ一分ト云フハ  
此ノ意味ナルヘシ)初ノ十七年間ニ渡ル利息公債ヲ發行ス  
ル案ニ依ル外ナント思ハル

尙宋子文ハ「ソコルスキ」ヲ渡米セシメ其ノ途次日本ニ  
テ充分了解ヲ取付ケシメ短期內國債ノ長期外債乗換ヨリ  
手始メント考ヘ居リ外債整理ノ爲「ソコルスキ」ノ所謂  
ル案ニ依ル外ナント思ハル

「リファンデイング ローン」(往電第一四七號)ヲ米國  
ニテ起ス考ヘハ無キモノノ如シ從テ債務整理ノ交渉ハ四圍  
ノ形勢ヲ有利ニ導クニ努メツツ之迄通ノ方針ニ依リ促進セ  
シメ然ルヘキ次第ト存セラル

633 昭和6年2月27日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

曾宗鑑がヤングと協議の上宋子文に提出した  
整理案の骨子を木村に内話について

上 海 2月27日後発  
本 省 2月27日後着

第一九二號(極秘)

往電第一九〇號ニ關シ

宋子文ニ提出ノ整理案ニ付廿六日大村ヨリ曾宗鑑ニ確カメ

タル處曾ハ「ヤング」ト協議ノ上宋子文ニ提出セル案ノ骨  
子ナリトテ左ノ通内話セル<sup>(趣カ)</sup>赴ナリ(二月五日附亞細亞局長  
宛機密拙信(内)参照)

(一)整理公債一五億金單位弗ヲ以テ整理シ内五億ハ鐵道借款

十億ハ其ノ他ニ振リ當テ前者ハ材料代金舊債券ノ延利同元

634 昭和6年2月27日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

ソコルスキは正金等に米国での起債の斡旋  
を依頼すると思われるがその際債務整理を督  
促すべく手配方意見具申

本 省 2月27日後着 上 海 発

## 第一九三號（極秘）

「ソコルスキ」渡米ノ使命ハ屢次電報ノ通ニシテ日本ニ  
於テハ日本借款團代表者ヨリ米國團体ニ對シ中國ノ米國ニ  
於ケル起債ニ應セントヲ慾漁シ貰フ爲「ソコルスキ」  
ヨリ正金側ニ依頼スルモノト想像セラル「ソコルスキ」

ハ絶エス宋財政部長トハ電信往復ヲ爲スヘク日本側ニ於テ  
ハ彼ヲ好意ヲ以テ迎フルト共ニ彼ニ對シテ債務整理ハ至急

促進ノ要アル趣旨ヲ以テ督促的質問ヲ發スルコト然ルヘシ

彼ノ使命ハ眞面目ニシテ且重要ナルモノニハ相異無キモ彼  
ノ財政的智識及意見ハ必スシモ全部宋子文ヲ代表スルモノ  
ニ非ス宋ハ彼ヲ一部ノ仕事ニ使用シ居ル次第ニシテ彼ニ依  
リテ良好ナル空氣ヲ作り外債發行等ノ實務ニハ或ハ「ヤン  
グ」ヲ派遣スルニ非スヤトモ推セラル節アリ（「ソコル  
スキ」ハ南京ニ於テ宋子文ノ手ニ依リ王龍惠、孫科、孔  
祥熙、王正廷等ヲ會合シ是等ニ對シテモ其ノ使命ニ付本官  
ニ對スルト同様ノ説明ヲ宋子文ヨリ爲シ了解ヲ得タリ）彼  
ハ多分三月七日頃東京ニ着クヘシ本省當局及大藏大臣正金  
方面ニ於テ然ルヘク御引見アル様御手配ヲ請フ

南京へ暗送セリ

アディス発案に対し全般的債務整理乃至中國財界  
の立直しの如き一般的計画として促進方意見具申

上海 3月2日前發 本省 3月2日後着

## 第二〇六號（極秘）

在英大使宛貴電合第八四號ニ關シ

「アディス」ノ考案ハ鐵道債務ノ整理及鐵道建設改良二件  
フ材料賣込ミヲ目的トシテ相當多額ノ新借款ヲ供與シ團匪  
賠償金ノ英國分拋棄額ヲ之カ擔保ニ充當セントスルモノナ  
ル處右ハ債務整理問題ニ對スル英國側年來ノ態度特ニ客年  
往電公第一一七三號英國側ノ意図ヲ反映スルモノナルヤニ  
モ考ヘラル（往電第一八九號Y. S. Chenニ關スル宋子文  
談參照）本件「アディス」ノ考案カ更ニ擴大セラレ米佛白  
等モ亦鐵道關係ニ重キヲ置キ「アディス」案ノ成立ヲ見ル  
ニ於テハ團匪賠償金解除額ノ大部分ヲ之力擔保ニ充當シ  
一般債務ノ整理ニハ其ノ他ノ外債解除額ヲ以テスヘシトノ  
主張生スルヤモ計リ難ク而モ往電第一九〇號外債解除額中

(1) 西原借款問題ニ關シテハ我方ニ於テ二億元見當ノ減額ヲ  
書入手セルニ付御参考迄別添ノ通送付ス尚右意見書ハ全然  
同人ノ私見ニ過キサル趣ナルニ付右御含置相成度

（別添調書其ノ添付ノコト）

（別紙第一號）  
債務整理

(2) 西原借款問題ニ關シテハ我方ニ於テ二億元見當ノ減額ヲ

認ムル限り宋子文ニ於テ内外債整理委員會委員ノ反對ヲ  
大体乘リ切り得ル見込付キタル模様ナルカ如ク最近曾宗  
鑑ハ右委員會ニ於ケル話合ニ基キ全体ノ整理計畫ヲ立案

シ居リ當方ニ於テハ技術的方面ヨリ之ヲ援助シ成ルヘク  
有利ナル計畫ヲ提出セシメント試ミ居ル次第ナルカ曾  
宗鑑ノ腹案ニ依リ原契約ノ元金ニ對シ一九三〇年末迄ノ  
三分ノ單利ヲ附スルコトトセハ右元利合計ハ原契約ニ

依ル同期間ノ元利金ニ比シ大體三割見當ノ減額トナル處  
之ニ對シ當方ハ専門家ノ意見トシテ一九二五年迄ノ原契  
約ニ依ル利息ハ債權者ニ於テ悉ク元金ト同様ニ取扱來リ  
居ル實情ナレハ之ヲ減額スルハ困難ナリトテ一九二五年

西原借款に関する岡部興業銀行嘱託意見書送  
付について

昭和6年3月2日

幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛

亞一機密第四八號  
昭和六年參月貳日

外務大臣男爵 壁原 喜重郎

臨時代理公使 重光 葵殿

西原借款ニ關スル岡部興業銀行嘱託意見書送付ノ件

迄ノ原契約ニ依ル元利合計ト其レ以後一九三〇年末ニ至

ル間ノ右元利合計ニ對スル年三分ノ單利ニ依ル利息ヲ加ヘタルモノトノ合計（大体原契約ニ依ル元利合計ノ一割六分減トナル）ヲ以テ整理スヘキ債權額トシタキ意向ヲ通シ居ルモ今ノ處孰レニ落チ付クヤ不明ナリ。

右ノ如キ中國側ノ腹案及宋子文ニ於テ現在内外債償還ニ要スル年額中ヨリ一億元見當ノ餘裕ヲ作リテ財政計畫ノ遣リ繰リヲ爲スカ爲關稅擔保ノ短期内債ヲ長期外債ニ借換方ヲ計畫中ナル事情ニ鑑ミ整理スヘキ債權額トシタキ意向ヲ來得ル限り縮減セント考ヘ居ルコトハ明ナルヘク結局原契約ノ元利合計ノ三割程度ノ減額ハ已ムヲ得サルモノト認ム

(二)財政顧問ノ件ニ付テハ宋子文ヨリ再三ノ催促アリ且極メテ短期間ニテ而モ現官ノ儘ニテモ大体異存ナキ模様ナレハ成ルヘク速ニ適任者ヲ決定セラレタシ

(三)孫文ニ對スル日本產業會社借款ノ件

先ツ當業者側ヨリ直接中國側ニ開談シ當方トシテハ其上ニテ之ヲ側面ヨリ援助スル建前トスルコト可然トノ趣旨稟請済

#### 四 山東省實業借款整理

本件ハ在濟南中日代表ヨリ南京ニ對シ書面ヲ以テ再三陳情シ居ル模様ナルモ先ツ中日ヨリ財政部長等ニ申入レンメ其ノ上ニテ當方ヨリ援助スルコト致シタシ

(欄外記入)

重光代理公使持參ノ打合事項ノ一部

編注 「三割」の後に「三分」との書き込みあり。

637 昭和6年3月2日 在パリ沢田連盟事務局長より  
幣原外務大臣宛（電報）

ドラモントが米國財界人の對中借款に関する意見と連関させてソルターの訪中を重要視しているとの杉村次長内報について

第一九號  
パリ 3月2日後発  
本省 3月3日後着

過般來南米旅行中ナリシ「ドラモンド」最近歸來其ノ機會ニ氏ハ特ニ杉村ヲ招致シ聯盟關係ノ各種問題ニ付種々内明

(編注) 話ヲ爲シタル趣ニテ詳細杉村ヨリ内報アリ其ノ中一二主要點左ノ通

一、「ドラモンド」カ紐育通過ノ際會見セル米國財業者ハ諸外國對支貿易促進ノ見地ヨリスルモ四圍狀況ノ許ス限り對支借款成立ハ成ルヘク之ヲ翼成セサルヘカラストナシ且右借款成立スルカ如キ場合ニハ米國トシテハ單獨右ニ應ス

ル財力アルモ外部ヨリノ誤解並ニ之ヨリ來ルコトアルヘキ不測ノ禍ヲ避クル爲多少寃ニテモ各國ヨリ應募スルコトト致シタクスル場合ニハ聯盟ニ於テ仲介ノ勞ヲ執り得ル様益々

此ノ方面ノ調査及準備ヲ進メラレタシトノ意見ヲ述ヘタルニ對シ「ドラモンド」ハ米國財業者側ヨリ斯ル意見ヲ聞クヲ喜フ旨答ヘ置キタル趣ニテ右ニ關聯シ「ドラモンド」ハ「ソルター」今回ノ渡支ヲ頗ル重要視シ居ル由

二、軍縮會議ニ關シテハ事務局内部ニ於テモ準備促進方種々焦慮シ居レル處外部ヨリモ内々注意申出ノ向モアリ議長問題ニ付テモ獨逸ノ如キハ戰時敵側ノ國人ヲ議長ニ推スコト

ハ絕對ニ反對シ和蘭前外務大臣「カルネベック」推舉ノ運動ヲ開始シ居レル處「ドラモンド」ハ依然「ベネシユ」說ヲ維持シ居ルト同時ニ會議準備任務ニ付現在ノ如ク事務總

上海 発  
本省 3月7日前着

## (三) 第二三九號 (極秘)

法權問題ニ關スル英國ト中國政府トノ交渉ハ「ランプソン」ノ説明ニ依リテモ明力ナルカ更ニ右説明以上ニ進ソテ英國側ノ眞意ハ之ヲ中國側ニ披瀝シテ交渉促進ヲ計リ居ルハ事實ナルモノノ如ク(胡世澤ノ上村ニ對スル談話)又米國政府ノ意図(「ホーンベック」ノ所謂私案)モ中(國)側ニハ素ヨリ判明シ居ル様子ナリ(昨今ノ形勢ハ一昨年末王正廷カ英國等ノ默諾ヲ得テ法權問題ニ付宣言ヲ發シタルト酷似ス)斯ノ如ク英米ノ態度ヲ突止メル中國側ハ日本トノ關係ニ對シテ急速ニ冷淡トナリ來リソツアリ

右ハ我議會ニ於ケル狀況ヨリ判断シ現政府ノ基礎不確實ニシテ到底中國問題ニ對シ確乎タル友誼的ノ政策ノ運用ヲ期待シ得ストノ疑惑モ集ヒ更ニ又滿洲鐵道交渉牽制ノ爲及滿洲ニ於ケル各種ノ問題提起ノ爲張學良系各方面ノ關係者ノ策動モ混リ漸次日本ニ對スル空氣ヲ險惡ニ向ハシムル原因トナリツツアリ

(二) 王外交部長ノ諸問題ニ關スル態度等ハ御承知ノ通ニテ王正廷外交部長ノ諸問題ニ關スル態度等ハ御承知ノ通ニテ王正

上海 3月6日後発  
本省 3月7日後着

## (四) 第二四〇號 (極秘)

内外債整理委員會ノ模様ニ付六日曾宗鑑カ大村ニ内話セル處左ノ通

(一) 委員會ハ六日午前開催(委員全部出席)孫科ヨリ鐵道問題債務ノ整理案(百圓ヲ二百五十元替トシテ整理スヘキ

債務總額一四億銀元右整理案郵送ス)ヲ提出シタルカ各

委員ハ整理額多キニ過クト爲シ孫科ヨリ整理新公債ハ幾何迄出シ得ルヤト質ネ宋子文ハ財政交通(鐵道關係ヲ含ム)兩部ノ分ヲ合シテ十億金單位ノ見當ナルカ斯ク多額ノ鐵道債務ノ整理ハ不可能ナリト述ヘ更ニ黃次長ト曾宗

鑑ト協議シテ終案ヲ造ルコトト成レリ  
(二) 利子ニ付テハ初メ二三年ハ無利子トスルヨリ外ナク元金モ十年後位ニアラサレハ償還困難ナリトノ意図モアリタリ

(三) 王正廷ヨリ外交部トシテハ西原借款ヲ認ムル形式ノ整理案ヲ採用スルコト困難ナリト述ヘ他委員ヨリ承認ノ形式トセストモ整理(シ)得ヘシト注意シ王ハ更ニ本借款ニ

廷當座ノ思付ニ止マラス政府部内ノ意図ノ反映ナリト認メラル電信交渉ノ如キモ今日トナリテハ右一般空氣ノ影響ヲ受クルコトナキヤヲ恐レ居レリ  
本官ハ宋子文等ノ要部ニ對シテハ我政況ヲ説明シ日本關係ノ重大ナル所以ヲ説得シ置ケルカ目下「ソルタ」等(聯盟關係ニ付テハ「ハース、ライシマン」共)滯在シ居リ宋子文ノ重キヲ置ク對米借款問題等財政ヨリ見タル中國ノ英米關係カ餘リ日本ノ協力ヲ要セサル形勢漸次明白ト成ルニ於テハ宋子文ノ良好ナル對日態度モ果シテ何時迄續クヤ不明ニ思ハル  
以上ノ形勢ハ慎重ニ考フルコトヲ要スヘク此際ハ對華政策ノ運用ノ全般ニ亘リ中國ノ政況及他重要國ノ態度ヲモ参照シ根本的ノ考慮ヲ拂ハレ然ルヘキ時期カト愚考ス

639 昭和6年3月6日 在中国重光臨時代理公使  
幣原外務大臣宛(電報)

王正廷が内外債整理委員會で外交部としては  
西原借款を認める形式の整理案採用困難と述べたとの曾宗鑑内話について

ハ「レコウド」ナキモノアル模様ナリト言ヘルニ付曾宗鑑ヨリ調査ノ結果左ルコトナシテ説明シ何レ「レコウド」ヲ集メルコトト成レリ(王正廷ハ其節借手カ初メノ使途以外ニ使ツタカラトテ貸手ノ權利ニ影響スルハ理窟ニ合ハヌコトトモ思ハルト述ヘ居リタル趣ナリ)  
(四) 整理ニ付テハ各委員別ニ基キ總テ何等外部ニ發表セサルコトニ申合次回ヲ來週金曜日トシテ散會セリ

640 昭和6年3月19日 在中国重光臨時代理公使  
幣原外務大臣宛(電報)

債務整理委員會において決定された債務整理  
具体案について曾宗鑑より内話について

南京 3月19日後発  
本省 3月20日前着

第二九三號 (極秘)  
往電第二四〇號ニ關シ

債務整理委員會ハ十八日午後(十三日ハ孫文記念日ニテ延期)宋子文官邸ニ開催委員全部出席整理具体案ニ付大要左ノ通解決シタル趣ナルカ右ハ曾宗鑑カ大村ニ對シ極秘ノ含

トシテ内話シタルモノナレハ絶對外部ニ洩レサル様取扱上御注意ヲ請フ

一、先ツ會宗鑑ヨリ西原借款關係文書全部完備セル旨ヲ報告シ（當方ヨリ供給シタル寫ヲ披露シ又滿蒙五鐵道借款ヲ除キ契約書全部分明シ且何レモ國務會議ヲ通過シテ日本公使館ニ備案シアル旨「但參戰借款ハ契約當時ヨリ遅レテ一九二五年備案」並ニ滿蒙鐵道ノ現契約ハ當時ノ交通部長ノ書翰ニ依リ中國關係官廳ノ孰レニ力保管サレ居ル事明カナリト說明セリ）續イテ宋子文ヨリ中國トシテハ將來外債募集ノ必要アル處其場合日本力應募ニ參加スルヤ否ヤ不明ナルモ少クトモ日本力列國ノ應募ヲ阻止シ得ヘキ地位ニアル事ナレハ此際先ツ債務整理ヲ實行スルコト必要ニシテ西原借款ニ付テモ少クトモ元本ニ付テナリトモ整理スルコト日本ニ對スル關係上肝要ナリト説明シ何レモ之ニ反對スル者無ク唯本問題ハ内政上重大ナル關係アリ特ニ五月國民會議ヲ控ヘ居ル事ナレハ之ヲ絕對極秘ニ附スルコトニ申合セタリ

二、次テ一般的整理大綱ノ問題ニ移リ大體ニ於テ現存債權

（欄外記入一）

尙十九日本官宋部長ニ面會ノ際本官ノ質問ニ對シ債務整理委員會ハ毎週開會シ居ル處大體良好ノ空氣ニ進ミ居ル旨答へ遠カラス更ニ本官ト話ヲ進ムル段取トナルヘキ趣旨ヲ述ヘ居タリ

（欄外記入一）

關稅會議當時ノ債務表ヲ基礎トセハ元本二八五、三四一、利子八八、三三八 合計三三三、六七九 昭和五年末元利額トノ差ハ 二〇三、一七六

（欄外記入二）

墨国外債ノ様ニ延滞利子ノ10%トカト言フ様ニスルヲ可トス然ラハ各債務表ニ付不公平トナル

641 昭和6年3月23日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

中國財政顧問至急人選方要請について

上海市 3月23日後発

本省 3月23日後着

第三一〇號（極秘）

ヲ元本ト利息二分チ元本ハ其儘之ヲ認ムルモ利息ハ契約當時ヨリ現在ニ至ル極メテ低キ單利ヲ以テ（年一分又ハ二分已ムヲ得スノハ年二分五厘トスルコト）計算シタル額ヲ以テ利息額トシ兩者ヲ併セタルモノニ對シ新債券ヲ交付シ右新券ノ利子ハ相當低クスヘク（三分位トシタキモ已ムヲ得スハ四分強トスルコト）右ニ依リ會宗鑑ニ於テ表ヲ作成シテ更ニ委員會ニ附議シタル上列國ニ對シ交渉ヲ開始スルコトトナレリ

三、尚鐵道運賃ニ付キテハ孫科ヨリ滬寧、滬杭甬及北寧諸鐵道ニ關係アルモノハ鐵道部ニ於テ整理シ其他ハ總財政部ヨリ整理セラレタント提議シ之ニ對シ宋子文ヨリ西原借款ノ鐵道借款、湖廣及英佛借款ノ如ク單ニ權利アルノミニテ實際ニ敷設セラレサリシ借款並各鐵道ノ材料賣掛代及債券利札ノ未拂分ハ財政部ニテ整理スベク其他ハ全部鐵道部ニテ整理スベク之ニ對シ財政部ヨリ補助ヲ爲スヘン但右財政部整理ノモノニテモ債權者カ鐵道ニ依ル整理ヲ希望スル場合ニハ之ニ依ルモ差支ナシトノ案ヲ出シ右ノ趣旨ニ依リ兩部ノ間ニ具體案ヲ協議スルコトトナレリ

（欄外記入二）

往電第三〇七號ニ關シ

豫テノ御來訓ニ基キ財政部長ト話合ヲ爲シ居タル處同部長ヨリ上村來電第一三三號ノ如キ電報接到セリ雇傭關係ノ點ハ都合ニ依リテハ相當短キ期間ニテモ差支ナシトノ意図ナルニ付至急御人選ノ上人名御通知ヲ請フ

尙債務整理其他財政問題一般ニ付急速ニ轉開シツツアル此際ナルニ付御人選ノ上ハ雇傭條件ノ如キハ交渉終了ヲ待タス直ニ出發スル様御取計願フ

642 昭和6年3月26日 在濟南西田總領事より  
幣原外務大臣宛

山東省實業借款に關し具体的償還方法案出のため重光代理公使をして中央で解決方意見具申

（4月2日接受）

在濟南

機密第一二四號  
昭和六年三月二十六日

外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿

山東省實業借款整理ニ關スル件

本件ニ關シ二月二十三日附亞一機密第一五號貴信御來訓ノ

趣敬承本月十一日本官韓主席ニ會見シ御訓令越ノ次第篤ト  
説明シ速力ニ具体的の辦法ヲ講シ償還セラレ度旨申入タル處  
韓ハ本件ハ特ニ放任シ置ク次第ニアラサルモ裁厘ニ伴ヒ營  
業税モ未タ實施ニ至ラス收入激減シ經費ノ支辨サヘ不十分  
ニシテ今後營業税ヲ實施スルモ厘金裁撤ノ補充ニ過キサル  
状態ナレハ實際上償還方法ナキ現狀ニ付本件ハ中央政府ニ

狀態ナレハ實際上償還方法ナキ現狀ニ付本件ハ中央政府ニ  
處理スルヲ至當ト認メ請訓中ナルカ貴官督促ノ次第モア  
リ省政府トシテ考慮スヘキモ結局更ニ中央ニ解決方稟請ス  
ル外無之次第ナラント考へ居ル旨答ヘタルニ付

本官ハ貴省政府ノ收入實況ハ種々困難アランモ本借款ハ元  
來貴省政府ト中日實業公司間ニ訂結セラレタルモノニシテ  
貴省政府ハ其債務者タルコト事實ナレハ之力償還ノ責任ヲ  
有スルコト明瞭ナル處現在貴省政府ハ中央政府相互間ニ本  
件整理償還ニ付責任ノ擦合ヲナシ居ルカ如ク見受ケラレ斯  
テハ何時解決シ得ルヤ想像シ難キニ付本件ハ是非共貴省政  
府ニ於テ具体的の辦法ヲ講セラレ度尙ホ高木駐在員ヲシテ直  
接財政廳側ニ交渉セシムヘキニ付右ニ御含置キアリ度ト述  
ヘ置キシカ更ニ本月十六日附ニテ別紙寫ノ通リ韓主席ニ照

會シ置ケリ

又本件ニ關シテハ省政府ニ於テモ持テ餘シ公文ニテ中央行  
政院及財政部ニ照會セル外財政廳翁秘書長及金庫長宋福祺  
ヲ南京ニ派遣シ本件ヲ協議シ最近省政府委員張鍊ヲ南京ニ  
派遣シタル用向中ニハ本借款整理案モ其ノ一ナル由傳ヘラ  
レ居ルカ中央トシテモ考究中ナルモ未タ具体的の償還方法案  
出シ居ラサル模様ナリ

要スルニ本借款ハ數年來元金ノ償還ハ素ヨリ利子サヘ支拂  
ハレス陳調元省主席タリシ當時中央政府ノ訓令ニ基キ財政  
廳長袁家普ハ償還整理方法ヲ講求セシモ實現セス現在省政府  
トシテハ裁厘ニヨリ貨物稅鐵路貨捐等撤廢セラレ擔保物  
件消滅セル爲中央政府ヨリ省政府ニ整理償還方訓令アルト  
モ之力資金ヲ中央ヨリ送付ナキ限り償還困難ノ口吻ヲ洩シ  
居ルニ付本件ハ短期間ニ解決スルコト至難ニアラスヤト思  
考スルモ高木駐在員ヲシテ直接財政廳側ニ交渉セシムルト  
共ニ本官ヨリ韓主席ニ今後共督促スヘキ考ナルカ本件ハ中  
央政府トノ關係モアルニ付在華代理公使ヲ煩ハシ中央政府  
ニ具体的の辦法ヲ講シ速力ニ解決スル様中央當局ニ注意ヲ喚  
起セラルヽコト機宜ニ適シタル方法ナラント思考ス

(欄外記入) 二具体的の辦法ヲ講シ速力ニ解決スル様中央當局ニ注意ヲ喚

(欄外記入) 起セラルヽコト機宜ニ適シタル方法ナラント思考ス

右不取敢報告旁卑見裏請ス

本信寫送付先 代理公使 北平 青島 南京

(別 紙)

華第一號

拜啓陳者中國實業公司ト貴山東省政府トノ間ニ締結セル山

東省實業借款ニ關シテハ本月十一日貴主席ト會談ノ際整理

方ニ付本國政府ヨリ訓令越ノ次第篤ト話合置キタル通り中

日實業公司ニ於テハ貴政府ノ具体的の償還方法未定ニシテ何

等入金ナキ爲借入銀行ニ對スル利子サヘモ支拂不能ノ状態

ニテ非常ナル窮境ニ陥リ候而シテ貴政府ニ於テハ中央政府

ニ亘リ中日實業公司ニ對シ山東省政府ニ於テ責任ヲ負フテ

償還セシムル旨指令シタル由回答ニ接シ居ル次第ナルニ貴  
省政府ニ於テハ中央ニ整理方申請中ナル旨ヲ繰返サレ本件  
借款ハ貴中央政府ト貴省政府トノ間ニ責任讓合ノ感有之何

時解決スヘキヤ荏苒空過歸結スル處ヲ知ラサル状態ナルヲ  
以テ該公司ハ維持經營ニサヘモ困却セル現狀ニテ至急具体  
的解決案ヲ必要トスル次第ナル處元來本借款ハ貴省政府ト

山東省政府主席 韓 復集殿

總領事 西田 明一

(欄外記入)

本件ニ付テハ厘金撤廢ヲ機トシ中央政府ヲシテ整理セシムル  
様重光ニ訓令シタル経緯アリ

編 注 「求」の箇所に「究」との書き込みあり。

## て宋子文が要請について

上 海 4月15日後発

本 省 4月15日後着

644 昭和6年5月9日 在米国出淵大使より  
銀価安定のための国際會議開催は日本が招集方  
最適と考る旨キング上院議員の談話について  
ワシントン 5月9日後発  
銀原外務大臣宛(電報)

### 第三九五號(極秘)

十四日宋財政部長ニ面會シタルカ同部長ハ外交部長ニ對シ  
南京事件ノ促進ヲ促シ置ケル旨ヲ述へ居タルカ特ニ若槻内閣ノ成立ニ關シテ種々質問シ自分ノ密カニ骨敬スル幣原外相、井上藏相等カ繼續シテ其地位ニ留マラルハ大ニ意ヲ

強クスル次第ナリ蔣主席不在中ニモアリ自分ヨリ若槻總理へ又外務大藏大臣ニ對シ深厚ナル敬意ヲ表シタク民國政府ハ濱口内閣ニ對スルト同様ノ好感ヲ有スル旨述へタリ尙其際財政顧問ノ問題ニ付立派ナル人物ノ派遣ヲ實現セラレタキ旨重ネテ依頼アリ次テ債務整理ノ問題ニ付テハ本官不在中モ係官ニテ討議ヲ進ムルニ異存ナキモ目下懸念シ居ルハ國民會議ニ於テ突然種々ノ問題提起セラレ決議等ヲ以テ本件ニ關スル政府ノ立場ヲ拘束シ其ノ行動ヲ困難ナラシムルカ如キコトヲ避ケタク從テ其他ノ問題同様債務整理ノ問題モ出來ル丈表面ニ出テサル様ニシ居ル次第ナリト考へ居レル旨ヲ述ヘタリ

最モ適當ト考へ居レリト述ヘタル趣ナリ

645 昭和6年5月9日 在米国出淵大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 銀價安定問題に関する国際會議招集を懇請さ

れた場合の我が方の対応内意につき請訓

ワシントン 5月9日後発

本 省 5月10日前着

### 第一〇二號

往電第三二號ニ關シ

七日法權問題會談後「キヤスル」ハ銀價安定問題ニ言及シ國上院ハ曩ニ右安定ノ爲大統領ニ於テ國際會議ヲ招集セシコトヲ希望スル決議ヲ通過シタルカ爾來米國政府ニ於テ研究シタル處右會議ヲ華府ニ開クコトナレハ米國力銀產出國タル關係上英國方面ヨリ種々ノ誤解ヲ受クル虞アルノミナラス自然戰債問題等モ之ニ伴ヒテ議セラル懸念アリ甚タ面白カラスト考へ居ル次第ナルカ日下開催中ノ國際會議所總會ニ於テモ此問題カ頻リニ議セラレ居ルニ顧ミ

「スチムソン」長官ニ於テモ更ニ考慮ノ結果結局本問題ト往電第一〇〇號ニ關シ

往電第一〇〇號ニ關シ

七日ノ國際商業會議所會合ニ於テ銀價安定ノ爲國際會議招集方ノ決議案附議セラレタル際首藤ヨリ「キング」ニ對シ本決議案通過セハ米國政府ヲ動カシ會議ヲ招集セシメ得ヘキヤト問ヒタル處「キング」ハ實ハ昨年五月以來再三招集方ヲ大統領ニ要請シタルモ右ハ英國力爲スヘキコトナリトテ受付ケス國務長官モ米國力本件會議ヲ招集スルトキハ戰債賠償等ノ問題ニ觸レ來ル虞アリトテ贊成セス他方英國藏相モ此際印度ニ關スル問題ニハ少シモ觸ルルヲ欲セストテ絶對ニ反對シ居レリ從テ本件決議通過ノ上ハ今一應米國政府ヲ動カシ見ルヘキモ依然應セサル場合ハ日本又ハ支那ニ諮詢ルナキ處支那ハ不適當ニ付結局日本ニ招集シ貰フコト

銀價ノ安定ニ痛切ナル利害關係ヲ有スルト共ニ別段外國側ヨリ誤解ヲ受クル虞ナキ日本ヲ煩ハスコト最モ適當ナルヘシトノ考ヲ抱クニ至レリ米國側一部ニ於テハ支那ヲシテ招集セシムヘシトノ說アルモ支那ハ其現狀ヲ以テハスル會議ヲ招集シ得ヘキ地位ニアラサルモノト認メラレ米國政府トシテハ之ニ反對ナリト述ヘ尤モ右ハ未タ米國政府ノ確定議ニアラス從テ一應貴大使ノ御参考迄ニ御話致シ置クニ過ギスト内話セリ

右ニ對シ本使ヨリ日本ハ國際問題ニ付テハ出來得ル限り列國ト協調スルヲ以テ一貫シタル方針ト爲シ居ルニ付銀價安定等ノ事項ニ付テ關係國ト協力スルコトハ固ヨリ之ヲ辭セサルモ自分一己ノ考トシテハ銀價安定策ノ如キハ頗ル困難ナル問題ニシテ政府トシテ國際會議ニ依リ其ノ目的ヲ達シ得ヘキヤ疑問ナリト考へ居ル處米國側ニ於テ何等力成算アル次第ナリヤト尋ネタルニ「キヤスル」ハ別段成算アル譯ニハアラサルモ關係各國代表者集リ協議セハ何等カノ方案ヲ發見シ得ルヤモ計リ難ク愈爲スヘキノ策ナシト言フコトニ歸着セハ夫丈ケニテモ問題ニ結末ヲ付クルコトトナルヘシト述ヘタリ依テ試ミニ本使ヨリ本件ハ米國上院決議ノ趣

旨ニモ鑑ミ米國ニ於テ之ヲ開催セラルコトハ大統領ニ於テ絶対ナラ  
スヤト告ケタルニ米國ニ於テ開クコトハ大統領ニ於テ絶対  
ニ反対ナリト語レリ

尙八日「ストローン」來館ノ際彼ノ意見ヲ尋ネタル處「キ

ヤスル」同様日本主催ノ下ニ會議ヲ開クニ至ランコトヲ希

望スル旨熱心ニ申述ヘタリ本件ハ累次ノ報告ニテ御承知ノ  
通「ピットマン」等米國銀產地方選出ノ上院議員カ主動的  
態度ヲ執リ上院ノ決議ヲ見ルニ至リタルモノニシテ等シク  
銀產地出身上院議員タル「キング」カ突如國際商業會議所  
會合（往電第一〇〇號及第一〇一號参照）ニ割込ミ國際會議所  
議招集方ノ決議ヲ通過セシメタルコト等ニ徵シ專ラ米國側  
生産者方面ノ希望ニ出テタルニ過キサルモ諸般ノ情勢ニ鑑  
ミ米國政府トシテハ早晚何等カノ措置ヲ執ルノ已ムヲ得サ  
ルニ至リ結局或ハ右會議招集方ヲ我方ヘ懇請シ來ルヤモ計  
リ難シ就テハ此際取急キ本件御考究ノ上本使含ミ迄帝國政  
府ノ御内意成ルヘク速ニ電報ヲ請フ

編注 「ト」の箇所に「ハ？」との書き込みあり。

海としている意向について

646 昭和6年5月18日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

中国側としては銀問題國際會議の開催地を上

上海 5月18日後発  
本省 5月18日後着

第四五八號

銀問題國際會議ニ關シ大村ヨリ李銘、張廣建等ノ意図ヲ聞  
カセタル處中國側ニ於テハ會議ノ開催地ヲ上海トシタキ希  
望ナルカ右ニ付テハ貝ニ於テ大体各國利害關係者ノ贊成ヲ  
得居ル由ニテ現ニ倫敦ニアル貝ニ對シ六月十五日前ニ歸國  
スル様電報シ居リ其歸國ヲ俟チ會議開催ノ準備ヲ研究スル  
段取ト爲シ居ル趣ナリ尙金本位制ノ問題ニ付テハ中國側ニ  
於テ研究シ居ルモ急速實行シ得ル問題ニ非サレハ今回ノ會  
議ニハ提案スル意図ナク又銀價ヲ釣上クル事モ仲々困難ナ  
レハ之ニ多クノ望ヲ掛ケ難カルヘク中國側トシテハ銀價安  
定ヲ計ル爲何等カノ方法ヲ決定スルニ重キヲ置ク意図ナル  
趣ナリ右御参考迄

北平、奉天ヘ轉電シ上海ヘ轉報シ南京ヘ暗送セリ

647 昭和6年5月20日 幣原外務大臣より  
在英國松平大使宛（電報）

銀問題國際會議開催に關しては日下慎重考慮  
中のところ差當り英國側の対応查報方訓令

付記 五月十二日閔議議事覚書

「銀價ニ関スル國際會議招集問題」

本省 5月20日後4時40分發

第一二〇號（暗）

本大臣宛在米大使發電報第一〇二号ニ閔シ

米國側ノ需ニ應シ我方ニ於テ銀問題國際會議ヲ招集スヘキ  
ヤ否ヤニ付テハ政府ハ問題ノ重要性ニ鑑ミ本邦有力実業家  
ノ意見ヲモ徵シ目下慎重考慮中ナルガ御承知ノ通り本問題

ニ最モ關係深キ印度政府ニ於テ從來其ノ保有銀処分方ニ付  
キ自由ノ立場ヲ保持セントスル態度ヲ表明シ居ル次第モ有  
リ（「カルカタ」總領事發本大臣宛電報第一二〇號参照）（一）  
英國側ニ於テハ銀問題處理方策ニ付キ大体如何ナル意見ヲ  
有シ居ルヤ又（二）國際的手段ニ依ル銀問題解決ノ能否ハ別ト  
スルモ本件國際會議ガ何レカノ國ニ於テ開催ノ運ビトナル  
場合英國政府ハ右ニ参加ノ見込アリヤ（國際商業會議所總

會銀問題部会ニ於テ英國代表ハ政治家、實業家ヲ除ク單ナル  
専門家會議ナレバ贊成スト述ベタル由）等ハ差當リ當方  
ニ於テ承知致度キ點ナルニ付キ貴官ハ右ニ對シ各關係方面  
ノ意向ヲ探ラレ結果何分ノ儀折返シ回電アリ度シ尤モ日本  
側カ本件會議主催者タル意向ノ有無ニ付テハ何等「コンミ  
ット」セラレサル様御注意アリタシ

佛、米「カルカタ」ヘ轉電シ、佛ヨリ聯盟ニ轉報セシメラ  
レ度シ

（付記）

銀價ニ關スル國際會議招集問題

五月十二日閔議ニ於テ幣原外務大臣ヨリ最近米國側ヨリ日  
本ニ於テ銀價問題國際會議ヲ招集方内々提議アリタル旨ヲ  
披露セラレ右應否ハ成ルベク速ニ先方ニ回答シタシトテ本  
件協議ニ入りタル處井上大藏大臣ハ銀價問題ハ從来自分モ  
種々研究シタルモ結局名案ナク其儘トナリ居ル次第ニテ右  
會議ヲ招集スルトモ幾干ノ効果アルベキヤ疑問ナリト述べ  
ラレ幣原大臣ハ効果如何ハ疑ハシキモ之ニ依リテ大略銀價  
下落ノ真原因ヲ探究スルヲ得ベク夫レ丈ヶニテモ結構ナル

ベシト答ヘラレ次ニ若シ右開催ノ運ビトナラバ差詰メ何人  
ヲ議長ニ推シ然ルベキヤトノ議出デ土方日本銀行總裁ハ適  
任ナルベシトノコトナリシモ結局本問題ハ尚攻究スルコト、  
シ何等具体的ニ纏マル所ナク散會セリ

~~~~~

648 昭和6年5月20日 在米国出淵大使より
幣原外務大臣宛（電報）

銀問題國際會議が中国で開催となれば米国と
しては不本意乍ら参加の予定並び日本政府の

内意報知方請訓

ワシントン 5月20日後発
本省 5月21日前着

第一一一號（取扱至急）
往電第一〇八號ニ關シ

帝國政府ハ銀價安定會議ヲ招請スルノ意図ナキ趣ノ東京發
新聞電報傳ヘラル一方南京政府ニ於テ右招請ヲ考慮シ居
ル旨ノ報道モ亦傳ハリ「ピットマン」ノ如キモ米國ニ於テ
招請セサル場合ニハ支那ニ依リ招請セラルヘシトノ觀察ヲ
新聞紙上ニ公表シタル次第モアリ米國政府トシテハ愈々支

那ヨリ公然招請シ來ルカ如キ場合ニハ不本意乍ラ結局之ニ
應スルノ外ナカルヘシト決心シ居ル模様ナルニ付帝國政府
ノ御内意ナルヘク速ニ電報アリタ
英ニ轉電シ、佛及「カルカツタ」ニ轉電、佛ヲシテ聯盟ニ
轉報セシム

649 昭和6年5月22日 在英國松平大使より
幣原外務大臣宛（電報）

英國銀行家等は銀價安定問題を重要視してい

ない旨の湯元大藏事務官查報について

ロンドン 5月22日後発
本省 5月23日前着

第一八五號

往第一八三號末段ニ關シ湯元大藏事務官ヲシテ當地銀行家
及實業家方面ノ意図ヲ探査セシメタル處銀價安定問題ハ英
國全体トシテハ印度カ銀ヲ demonetize セル今日ニ於テハ
銀生產國タル米國程重要視シ居ラサル如ク從テ銀行家等モ
其解決ニ熱心ナラス殊ニ今國ノ國際商業會議所ノ決議ニ對
シテハ重要性ヲ認メ居ル趣ナリ香港上海銀行支配人 Sir

Newton Stabb ハ本問題ニ關聯シ湯元ニ語ツテ曰ク「印度

政府手持銀ノ賣控ヲ條件トスル如キ解決策ハ印度政府ノ承
認セサル所ナルヘキニ付實行性ナカルヘシ銀價安定ハ不況
打開ノ唯一ノ對策トハ信セサルモ少クトモ對支貿易助長ノ
效果アルヘキヲ以テ先ツ専門家ヲシテ解決案ヲ考究セシム
ルヲ適當ト信ス尤「ソルター」ハ支那財政改革問題に伴ヒ
銀價安定ニ付テモ必スヤ國際聯盟ニ報告スル所アルヘキニ
付右報告ハ本問題解決上ノ参考トナルヘク本件ニ國際聯盟
ノ力ヲ借ルコトモ一案ナルヘシ云々
米佛「カルカタ」ヘ轉電セリ

第四六九號（極秘）

往第四五一號財政顧問ノ件ニ付テハ其後御回電ニ接セサル
モ右顧問派遣中止ニ傾カレ居ルモノトハ解セラレス又當方
ヘ轉電ニ接セル國際聯盟理事トノ往復電信ニ依ルモ此種顧
問派遣ヲ重要視セラレ且其時機ヲ逸セサルヘキ御趣旨ト認
メラル本件財政顧問ハ民國政府自發的ノ申出ニテ最歡迎ス
ヘキモノタルヘク既ニ滿一年ニ亘ル懸案ニシテ先方ニ於テ
ハ之迄我方ノ希望スル條件ハ全部異議ナカリシ次第ナリ債務
整理ハ勿論統稅、戾稅等最近財政部長トノ交渉多キ際顧
問派遣ノ問題ノ如キニ對シテ先方ニ明確ナル回答ヲ爲シ得
サル本官ノ立場ノ極メテ困難ナルハ御諒察ヲ得タク本件此
分考慮ニ入ルノ必要アルヘシト思考ス政府ニ於ケル内部
ノ手數ノ御困難拜察スルモ此際果斷ヲ以テ御進捗ヲ仰キタ
ク結果御回示ヲ請フ

編注 「居ル」の所に「？」の書き込みあり。
~~~~~

650 昭和6年5月23日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

財政顧問派遣の遲延が宋子文等の心理に及ぼ  
す影響等充分考慮に入れ果斷を以て進捗方要請

上 海 5月23日後発  
本省 5月23日後着

銀問題はより広い視点から取扱わざれば國際會議

## 開くも効果ない旨英国外務省回答公文について

ロンドン 6月7日前発

本省 6月7日後着

我が方が銀問題国際會議招集引受け方躊躇せざるを得ぬ次第を國務次官に伝達方訓令

## 第一九四號

往第一九一號ニ關シ

本六日外務省ヨリ公文ニテ回答ニ接シタルカ右ニ依レハ本問題ニ對スル英國政府ノ政策ハ全ク國際會議ノ提議ノ正確ナル性質ニ依ルコト又會議ノ際代表者トシテ政治家ヲ送ルヘキヤ又ハ専門家ヲ出スヘキヤノ問題モ具体的提議ニ接セサル限り決定困難ナルコト及印度政府ノ態度モ大体英國政府ト一致シ居ルコトヲ確メタルコトヲ述へ最後ニ英國政府ノ意見トシテハ銀價ノ低落ハ全般的物價低落ノ一部ト看做シ居リ銀問題モ一層廣キ問題ノ一部トシテ取扱フニアラサレハ會議ヲ開クモ何等效果ナカルヘキヤニ思考スル旨追加シ居レリ

米へ轉電シ佛へ暗送セリ

## 652 昭和6年6月9日 常原外務大臣宛（電報）

在米国出席大使（電報）

昭和6年6月9日

聯盟ニ轉報セシメラレタシ  
~~~~~  
653 昭和6年6月11日 在米国出席大使より
常原外務大臣宛（電報）

昭和6年6月11日

在米国出席大使より

常原外務大臣宛（電報）

米國大統領も銀問題國際會議開催を考慮と國務次官付言について

門家會議開催を考慮と國務次官付言について
英ニ轉電シ英ヨリ佛及「カルカタ」ニ轉電セシメ佛ヲシテ
聯盟ニ轉報セシム

ワシントン 6月11日後発

第一二三號 本省 6月12日前着

貴電第九三號ニ關シ

六月十一日「キヤツスル」ニ面會御來示ノ次第ヲ申聞ケタ

ル處帝國政府力本問題ニ關シ熱心ニ詮議ヲ遂ケラレタル次

第ハ諸般ノ報道ニ依リ承知シ深ク多トシ居ル所ナリ貴大使

御話ノ次第ハ一々御尤モト存スルカ過日モ内話シタル通

（往電第一一八號）大統領ハ「ドウズ」ヨリ英國政府ノ方針ヲ聽取シ此際國際會議開催ノ望ミナキ事ヲ諦メ次善ノ方

法トシテ英側ニ於テ異存ナキ専門家間ノ會議ヲ開カシメ其結果何等考案成立スル場合ニハ進シテ國際會議ヲ招集ス

ル段取トナス外致方ナルヘシト考ヘラルルニ付右専門家

第一九四號

貴電第一〇二號ニ関シ

銀問題國際會議招集方ニ関スル米國政府ノ意向ニ付テハ政府ハ民間金融業者及貿易業者ノ意見ヲモ微シ篤ト考慮ヲ加ヘタルカ本邦側ニ於テ銀價ノ引上乃至安定ニ付未タ適切ナル解決案ヲ得ルニ至ラズ尤モ主催國トシテハ自ラ一定ノ解決案ヲ提議スルノ必要ナキモ結局關係列国一致ノ熱心ナル協力アルニ非サレバ會議ハ徒勞ニ了ルヘシ然ルニ各方面ヨリノ報道ニ依レハ本件會議ハ假令各國ノ立場ヲ拘束セサル非公式ノモノトスルモ各國共其開催ニハ餘リ氣乗リセサル力如ク他方此種會議ガ不結果ニ終リタル場合之カ爲銀價問題ヲ更ニ悪化セシムル虞アリトノ所論モアルヤニ傳ヘラレ旁々右ノ如キ事態ニテハ帝國政府トシテ本件會議招集引受ヲ躊躇セサルヲ得サル次第ナリ就テハ貴官ハ右ノ趣旨ヲ「カツスル」次官ニ傳ヘラレ其應答振回電アリタシ英ニ轉電シ英ヨリ佛、「カルカタ」ニ轉電セシメ佛ヲシテ

昭和6年6月13日 常原外務大臣宛（電報）

在上海 6月13日後発

昭和6年6月13日

在中國重光臨時代理公使より

654 昭和6年6月13日 常原外務大臣宛（電報）

銀問題國際會議開催方に關し宋子文が中國側も會議開催の意向なき旨談話について

第五二九號

上海 6月13日後発 本省 6月14日前着

最近日本ハ銀會議開催ニ反対ナリトノ新聞報道傳ヘラレ居ルヲ以テ八日宋部長ニ會見ノ節本官ハ銀問題ニ付テハ米國方面ニテハ日本力開會スレハ好都合ナリトノ意見ニシテ日本ハ同情ヲ以テ各方面ノ意見ヲ徵シ居タルカ其間各國専門家ハ種々意見ヲ發表シ之ニ依ルモ日本側トシテハ會議ヲ成

- (一) 日本興業銀行書記三井雄三郎（東亞同文書院出身、前財務書記、支那語ニ通ス）翻譯及庶務ヲ担当セシムルコト
三井ノ旅費給与ハ前記日銀正金ノ場合ニ準スルコト
- (二) 大藏属松崎健吉（理財局勤務、法學士）調査及秘書ノ事務ヲ擔當セシムルコト
松崎ハ大藏省ヨリ民國財政調査ノ為出張ノ形式ヲ採り、旅費給与ハ大藏省ニ於テ負担スルコト
右ノ内三井ニハ民國政府ニ於テ顧問補助トシテ聘用ノ手続ヲ採ルモ、松崎ニハ本邦政府ニ於テ旅費支出關係上其ノ手続ヲ採ラス
- (附記) 外務省側ニ於テモ必要ニ應シ適當ノ者ヲシテ顧問ヲ補佐セシメラレタシ
- 尚、民國政府ハ顧問ニ對シテ民國政府ノ負担ニ於テ
(一) 支那語通譯一人及英和文タイピストヲ附屬セシムルコト
(二) 必要ニ應シ顧問ノ要求ニ依リ民國政府財政部其ノ他部局ノ官吏一名又ハ數名ヲ顧問ノ補助トシテ附屬セシメ
顧問ノ事務ヲ援助セシムルコト
追記 顧問ハ民國官民トノ接觸交際上ノ便宜ヲ慮リ妻ヲ

第六、給與其ノ他ノ支給
(一) 給與
顧問ニ對シテハ俸給手當交際費等ヲ一括シ、契約期間
ヲ通シテ金^(二千九百五十)圓ヲ支給スルコト右給与ハ各三箇月分
相當額ヲ二回ニ前渡スルコト

右給與ハ契約期中、顧問カ自己ノ都合ニ依リ辞職シタル場合ニ限り日割計算ニ依リ（辞職ノ日ヨリ）過支給額ニ相當スル額ヲ民國政府ニ返納スルコト、顧問ニ於テ違約ノ事實アル為解約シタルトキ亦同シ

- (二) 旅費
(1) 顧問ニ對シテハ赴任及帰國ノ旅費概算各金^(二千九百五十)圓ヲ支給ス但顧問ニ於テ違約ノ事實アル為解約ノトキハ帰國旅費ヲ支給セス
(2) 顧問ニ於テ必要ニ應シ民國內地ヲ出張旅行スルトキハ相當ノ旅費ヲ支給スルコト
(3) 顧問ハ在任中少ナクトモ一回一時帰國旅行スルコトアルヘシ、此ノ場合並事務上必要ニ應シ一時帰國旅行スル場合ニハ往復旅費トシテ相當額ヲ支給スルコト

- (三) 住宅又ハ住宅料
顧問ノ在住地ニ於テ顧問ニ對シテ住宅ヲ支給スルコト右住宅ハ都合ニ依リ顧問事務所ニ兼用スルコト
右住宅ノ給與ナキトキハ相當額ノ住宅料ヲ支給スルコト
- (四) 事務費及設備
(1) 顧問及顧問部員一同ノ執務上必要ナル諸費支弁ノ為渡切事務費トシテ六箇月ヲ通シ金^(二千九百五十)圓ヲ支給シ前記顧問給与ニ準シ二回ニ交付スルコト但シ交付濟事務費ハ返納セサルコト
- (2) 右ノ外執務上必要ナル什器其ノ他ノ設備ヲ供給スルコト、顧問帰國ノ場合右残存品ハ之ヲ返納スルコト

- 附記(一) 納與ニ關シ民國政府トノ交渉ニ當リテハ顧問ニ對スル諸給与、各員ノ給与並費途ヲ別々ニ定メス、顧問一行ニ對シテ總括的ニ一定額ヲ支出スルコトニ協定シ、内部關係ニ於テ決定支給スルコトニ定ムルモ差支ナカルヘシ

- (二) 尚給與金額及支給ノ方法等ノ如キハケンメラ一委員一行ニ對スル前例モアルコトナレハ此等ヲ参照シ適宜協定セラルヘコト便宜ナルヘシ。

英ニ轉電シ英ヨリ在歐各大使ニ轉電セシム

656 昭和6年6月(23)日 在米國出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)
第一三五號

フーバー・モラトリアムに対する米国新聞論
調査ね好意的の旨報告

ワシントン 本省 6月23日後着 発

大統領ノ支拂延期提案ニ關シ諸新聞ノ論調ハ世界經濟ノ緊密ナル關係ニ鑑ミ歐洲諸國ヲ其經濟的破綻ヨリ救フハ即チ米國自ラノ繁榮ヲ確保スルノ道ナリトテ大体ニ於テ「フーバー」提案ヲ承認シ且本提案ハ米國民多數ノ支持ヲ得ヘシトナシ居ルモ中ニハ今回ノ提案ハ今少シ早カリセハ其效果更ニ顯著ナリシナラントナス者或ハ更ニ一步ヲ進メテ戰債ヲ實質的減額又ハ長期ノ支拂猶豫ヲ慾通スル者モアル一方本提案ノ結果今後米國ヲ誘導シテ戰債取消ヲ止ム無キニ至ラシメサルコトヲ要スト警告シ居ル者アルモ一般ノ論調極メテ良好ナリ

657 昭和6年7月9日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

宋子文に対し財政顧問として津島内諾の旨を
内報し選任の遅れた事情説明について

上 海 7月9日後発
本省 7月10日後着

貴電第二二六號ニ關シ
第六一三號（極秘）

十日宋子文ニ對シ津島内諾ノ件ヲ内報シ同人カ大藏省内部ニ於テ又財務官トシテ英米ニ於テ豊富ナル經歷ヲ有シ其人物及智識財界ノ人物中稀ニ見る處ナルコトヲ告ケ選任ノ遅レタル事情ハ同人ノ健康ノ問題ニモ關係アリタル次第ナリト述ヘタリ

宋ハ右選任ニ對シ非常ニ喜ヒ來月初迄ニ南京ニ到着スル様取計ハレ吳レ間敷ヤト述ヘタルニ付本官ハ既ニ内諾セル以上津島モ成ルヘク御希望ニ副フ様スルコトナラント思フモ兎ニ角問合セ見ルヘシ尙今日ハ單ニ津島内諾ノ次第ヲ不取敢御知ラセスル次第ナレハ凡テハ同人到着迄外部ニ洩ササル様セラレタント述ヘ宋ノ承諾ヲ得タリ

658 昭和6年7月25日 幣原外務大臣より
在濟南西田總領事宛

中日実業経営救済のため差当り月額一万円位
の利払い実行を省當局に折衝方訓令

亞一機密第六二號
昭和六年七月二十五日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎
在濟南
総領事 西田 畑一殿

山東省實業借款整理方ニ閔スル件
本件ニ閔シテハ曩ニ式月式拾參日附亞一機密第一五号往信ヲ以テ申進メ置キタル次第アルモ其ノ後右急速解決ノ見込乏シキ趣累次御申越ノ通ナル處近時中日實業ニテハ本件借款其ノ他各般ノ對支債権ヨリノ利拂収入全ク杜絕シ差当リノ維持費ニモ困窮シ居レル始末ニテ政府ニ於テモ之力救済方ニ付種々盡力シ居レル現状ナルニ付テハ右御含ノ上貴地中日駐在員ヲ指導シ本件借款ノ根本的整理ハ後日ノ話合ニ讓ルトスルモ差当リ月額最低壹萬円位宛ニテモ全借款ノ擔保物件又ハ之ニ代ルヘキ收入中ヨリ利拂ヲ実行スル様省政

府当局ニ對シ折衝方特ニ御配慮相成様致度此ノ段申進ス
本信写送付先 代理公使、北平、南京、青島

659 昭和6年8月20日 在中國重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

宋子文が三井大村に対し債務整理交渉の前途
日中關係悪化のため妨害を受ける事なきや憂

慮している旨内話について

上 海 8月20日後発
本省 8月20日後着

第七六六號（極秘扱）

三井大村豫テ一應歸朝ノ豫定ニテ其前ニ主トシテ債務整理ノ問題ニ付財政部長ノ意向ヲ聞ク爲二十日宋子文ニ面會セルカ其際宋ハ要領左ノ如ク説明セル趣ナリ

右ハ最近ノ國民政府當局ノ意向ヲ反映スルモノト思ハルル

ニ付御参考ノ爲電報ス

「廣東問題モ十月頃迄ニハ何トカ片付ク見込ニテ又北方ノ

時局モ大事ニ至ラスト思ハルニ付大体時局ノ安定ヲ見タル上ハ勿論債務整理ノ問題ニモ着手スル考ナリ唯自分ノ憂

660 昭和6年8月26日 在員より
高木（潔）中日実業株式会社濟南駐

東京本社高木副總裁宛

(欄外記入一)

山東実業借款整理に關し中央より地方的に解
決方指令あれば遠からず具体的効果實現を見
るものと推察について

昭和六年八月二十六日

中日實業株式會社
濟南駐在員(原文の通り)

東京本社

高木副總裁殿

拜啓

山東實業借款ノ件

右ニ關シ韓主席宛本月六日附弊狀ヲ以テ至急具体的解決方
要求致シ置候得共何等回答無之候故去ル十八日更ニ督促致
シ置候處之ニ對シ昨夜別紙(省略)寫ノ通り行政院ヨリ外交、財政
兩部ニ於テ核辨中ナル旨ノ回答ニ接シタルモノニテ其後未
ダ何等ノ確答ナキニツキ中央ニ向ツテ面催スベク人ヲ派遣
シタル由申來リ居り候之ハ過日王財政廳長ニ面談ノ際話有
之候駐京辦事處唐處長ノ歸京ニ託シ中央ト接洽至急確答ア
ル様督促致シ候次第ト存候前便得貴意候通リ執拗ニ連續督
促ノ結果省政府ニ於テモ今日ニテハ何トカ具体的解決ヲツ

ゲネバナラズトシテ自ラ進ソデ中央ニ指令ヲ仰グ様ニ相成
リ居リ候間此際中央ニ於テ從來ノ方針通り地方的ニ解決ス
ベク確固タル指令ヲ發シ吳レ候ハゞ最早遠カラズ曲リナリ
ニモ具体的効果實現ヲ見ハセヌカト推察致シ居リ候二十二
日弊電ヲ以テ公使ヲ煩ハシ促進方御願ヒ申上置候故御配慮
中ノ御事ト存居リ候モ當方トシテハ引續キ中央ニモ督促至
急具体的解決指令アル様宋部長ニ更ニ出狀ノ事ニ致シ居リ
候

東京本社

高木副總裁殿

拜啓

山東實業借款ノ件

(欄外記入一)
借款雜(中日)

昭和六年九月一日清水氏持參

(欄外記入二)
高木副總裁ノ伝言トシテ清水氏ヨリ今次中央ニ於テ交渉スル際ニハ前後五回ニ亘リ南京政府ヨリ地方的解決方申出アリタ
ル次第ヲ述ヘテ嚴重交渉アリタキ旨申出アリタリ661 昭和6年8月28日 高木中日實業株式會社濟南駐在員より
東京本社高木副總裁宛

多忙トハ云ヘ餘リニ緩漫ナル次第ニテ心外ニ存居候

右御報告旁々申上度如斯御座候 敬具
昭和六年八月二十八日

(別紙)

(山東王財政廳長來函寫實業借款ノ件民國二十年八月二十
七日附)

臺駕過廳暢談多時各罄衷曲無任欣慰並承交到八月二十日大

函啓者昨日(星期四)

貴代表焦急萬分卽本廳與

省政府方面亦均抱同様之心理數月以來無時不在懇促

中央迅予解決之中前准

貴代表一再函促業經本廳長商承

主席指派唐處長佛哉前赴首都分向

院部面爲交涉力懇毅然決定以免再延預料最短期間當有具體

辦法在末奉

中央復示以前所請月撥日金壹萬元或暫借臨時款項參萬元各

節仍應從緩再議務希

貴代表曲諒一切是所翰幸此致

右ニ關シ昨夜王財政廳長ヨリ別紙寫ノ通り公文接手仕候間
御高覽被成下度之ニ依テ見レバ省政府來函ノ意味ヲ一層確
實ニ表明致シ最早最短期間内ニ具体的の辦法決定スルラシク
豫想致シソレ故當方要求ノ臨時辦法ハ暫ラク待ツ様ニトノ
事ニ有之候故遠カラズ何等カノ形式ヲ以テ具体化スベキ事
ト期待罷在候ニ付此際抜カラズ注意目的貫徹ノ爲更ニ奮勵
努力至急實現爲致度考ニ御座候

右公文ハ本日西田總領事ニ提示致シ候處寫提出シ置カレ度
シトノ事ニ候故例ニ依テ送達ノ事ニ致シ居り候尙領事館ヨ
リ韓主席宛公文ハ目下起稿中ノ由ニテ未ダニ發送ニ至ラズ

中日實業公司代表高木潔先生

王 向榮

中華民國二十年八月二十七日

(欄外記入)

九月四日清水持參

濟南發本大臣宛電報第一六九号ニ閲シ

662 昭和6年9月4日 帽原外務大臣より 在中國重光公使宛(電報)

宋子文をして中央より山東省政府に對して債務整理解決方訓令する様交渉ありたきについて

本省 9月4日後11時15分発

濟南發本大臣宛電報第一六九号ニ閲シ

中日側内報ニ依レハ省政府側ニ於テモ何等解決ヲ計ラントスルニ傾キツツアルヤノ趣ニテ或ハ今一押ノ所ニアルニ非セヤトモ思考セラル、次第ナルカ本件ニ付テハ宋子文ヨリ中日ニ対シ前後五回ニ亘リ(昭和四年十二月四日、五年二月十八日、五月二日、十一月十三日、及十二月二十日附)ヨ

北平、濟南、青島、南京へ轉電セリ

ノ關係ニ於テ種々手數ヲ要スル次第ナリト語レリ依テ本使ヨリ充分中日側ノ要求ヲ實現セシムル様努力アリタシト繰返シ述へ置キタリ

濟南發本大臣宛電報第一六九号ニ閲シ

664 昭和6年9月17日 帽原外務大臣より 在中國重光公使宛(電報)

山東實業借款につき月額一萬円位支払いに応ずるよう国民政府に説得方訓令

本省 9月17日後10時発

濟南發本大臣宛電報第一六九号ニ閲シ

中日ハ維持費ニ窮シ其ノ存立危殆ニ瀕シ居ル實情ナル処中

日關係ノ各種對債權中差当リ多少トモ回収ノ見込アルハ

山東實業借款ノミナルニ付右ノ次第御含ノ上宋子文ニ對シ

中日ノ過去ノ業績ニ加フルニ其ノ特殊ノ組織(即チ同社ニ

對スル支那側ノ出資ハ同國國庫ヨリ支出セラレ居リ且從來

支那役員ハ政府要人之ニ當リ居リタルハ御承知ノ通ナリ)等ニ鑑ミ將來其ノ社運ニシテ回復セハ日支兩國ノ經濟關係

以テ)地方的ニ解決スヘキ旨ノ公文ヲ送付シ居ル次第ニモアリ此際中央ヨリ省政府ニ對シ必要ノ訓令ヲ發スル様御交渉相成度

南京ニ轉電アリタシ

北平、青島、濟南ニ轉電セリ

663 昭和6年9月8日 帽原外務大臣宛(電報)

宋子文と會見し山東省當局に同省實業借款の地方的整理方訓令を依頼について

本省 9月8日後着 上海 9月8日後発

貴電第三三四號ニ關シ

八日宋部長ニ會見ノ上本件經緯及中日側ノ言分ヲ摘記セル覺書ヲ手交シ山東當局ニ對シ地方的整理ヲ爲ス様訓令セラレタシト依頼シタル處財政部長ハ本件ニ關シテハ山東省ニ於テ中央ニ押付ケントスル態度ヲ持シ居レルカ自分ハ何トカシテ之ヲ同省ニ於テ處理セシメタキ意図ニテ山東當局ト

ニ有益ナル役目ヲ演スヘク旁ミ此ノ際維持費欠乏ノ為之ヲ消滅ニ歸セシムルカ如キハ甚タ面白カラサルヲ以テ我方ニテモ之力救済方種々斡旋シ居ル譯ナルカ山東省最近ノ財政狀態ニ顧ミ本件中日側希望即チ差当リ月額最少限一萬円ノ支拂ニ應スル位ノコトハ左迄困難ナラスト認メラルル一方国民政府ニ於テ此ノ種問題ニ付誠意ヲ示スハ日支關係全般ニ少カラス好影響アルヘントノ趣旨ヲ以テ此ノ際至急中央ヨリ山東省ニ対シ本件中日側ノ希望實現方ニ付必要ノ訓令ヲ發スル様説得セラレ結果回電アリタシ

南京ニ轉電アリタシ

665 昭和6年9月18日 帽原外務大臣宛(電報)

山東實業借款整理に關し中日側の実情より好意的に取り計らう旨の宋子文談話について

本省 9月19日前着 上海 9月18日後発

貴電第三六二號ノ趣旨ハ十八日宋財政部長ニ對シ往電第八

六六號ヲ引用シテ再ヒ本件申入ヲ爲シ更ニ山東省地方當局ニテハ財政部ヨリノ命令アルニ於テハ充分日本側ノ希望ニ應シ得ル模様ナルニ付（此點當地中日側ヨリ特ニ申出アリ）

是非地方當局ニ對シ至急命令方取計ハレタキ旨申入レタル處財政部長ハ地方政府ノ言フ所ハ常ニ自分ヲ「シールド」トシテ種々ナルコトヲ言フモ右ハ事實ト異ル所アリ夫ハ兎モ角中日側ノ事情ハ充分ニ考慮シ好意的ニ取計フヘシト述ヘタリ

本件ニ付テハ様子ヲ見テ更ニ督促スル考ナリ

青島、濟南、南京、北平ヘ轉電セリ

666 昭和6年9月25日 常原外務大臣より
在中国重光公使宛（電報）

津島の中國赴任を當分取止めとする様宋子文

に申し入れ方永井次官訓令

本省 9月25日発

第三八一號（暗、極秘）
往電第二二六號ニ閲シ

667 昭和6年10月22日 高木中日實業株式會社濟南駐在員より
東京本社高木副總裁宛（電報）

山東實業借款暫定辦法として毎月銀一萬元以上
上の支払いは不可能と觀測について

昭和六年十月二十二日

中日實業株式會社
濟南駐在員（英文書寫）

東京本社
高木副總裁殿

拜啓

山東借款暫定辦法ノ件

右ニ關シ不取敢一昨朝弊電ヲ以テ得貴意置候處折返シ一昨

夕貴電別紙ノ通り正ニ拜誦、此際事情已ムヲ得ザルニ付毎

月銀壹萬元入金ノ事御承諾ヲ得候間早速此旨回答致サント

存ジ候得共銀壹萬元ニテハ今日ノ相場ニ換算セバ金五千圓

ニモ達シ不申セメテ少クトモ毎月金五千圓以上入金ノ事ト

致度サリトテ此狀況ニテハ到底更ニ増額ヲ申出デ見候テモ

實現ハ不可能ナラントハ被察候モ僅カノ增額ナレバ本社ヨ

リノ電命トシテ兎ニ角當ツテ見ルモ無益ニアラザルベシト

再考致候ニ付當方ヨリハ此旨ヲ韓主席李民政廳長及ビ王財

政廳長ニ具体案出狀ノ事トシ一方西田總領事ニ更ニ御苦勞

御援助ヲ願ヒ同領事ヨリ韓主席ニ右勸說方相煩ハシ度昨日

打合セ申候間本日當方ヨリハ夫々別紙寫ノ通リ書面ヲ作成

リ可申候故斯クハ取計ヒ申候次第御座候即チ先便申上候

通り明二十三日ノ政治會議ニ於テ實際ニ決定ヲ見ル事ニ相

永井次官ヨリ

津島財務官ハ全ク予想セサリシ這般ノ歐洲財界動搖ノ為歐洲ニ帰任スルノ已ムナキニ至リタル趣ノ処目下ノ如キ時局ニ於テハ同官渡支スルモ其ノ目的ヲ達スルコト困難ナルヘク旁々同官ノ帰任ハ已ムヲ得サルヘシト存セラルニ付テハ右ノ次第御含ノ上宋子文ニ對シ本件ハ當分之ヲ「ドロップ」スル様可然御申入アリタ

編注 「本件」の所に「津島赴任ノ」との書き込みあり。

本件ニ付テハ様子ヲ見テ更ニ督促スル考ナリ

青島、濟南、南京、北平ヘ轉電セリ

666 昭和6年9月25日 常原外務大臣より
在中国重光公使宛（電報）

津島の中國赴任を當分取止めとする様宋子文

に申し入れ方永井次官訓令

本省 9月25日発

第三八一號（暗、極秘）
往電第二二六號ニ閲シ

667 昭和6年10月22日 高木中日實業株式會社濟南駐在員より
東京本社高木副總裁宛（電報）

山東實業借款暫定辦法として毎月銀一萬元以上
上の支払いは不可能と觀測について

昭和六年十月二十二日

中日實業株式會社
濟南駐在員（英文書寫）

東京本社
高木副總裁殿

成リ居リ候間本日右ノ趣提案重ネテ考慮ヲ促シ置候次第ニ有之候御含ミ置被下度幸ヒ同意承諾ヲ得候ハゞ直チニ一電得貴意可申候

尙右受入ノ際ノ金銀相場關係及ビ御電送ノ方法等ニツキテハ諸事決定打合セノ上後便御報告申上候

不取敢右貴電御請旁得貴意候

敬具

（別紙）

（山東韓主席宛出狀 實業借款暫定辦法ノ件 民國二十年

十月二十二日）

敬啓者關於山東省實業借款暫定辦法一事接奉本月十七日

鈞府第二五四六號復函敬悉隨於本月十九日承

鈞府李王張何王五委員龍召面示省庫近狀擬易所請月撥日金

壹萬元爲銀幣壹萬元當經弊代表縷陳弊方之苦況並以救急及增無可增弊代表不敢擅主須電東京請示而諸委員復以緩不濟急見告於是弊代表辭歸後急將所談各節電商東京以憑實行茲

於昨晚接奉復稱省庫艱窮既屬實情爲濟本社急需起見銀幣壹萬元亦無不可惟該借款本爲日金現在當社所需者亦屬日金此款如爲將來雙方記帳便利及本社此時用項計最少之數須與日

金五千元相等方爲適宜接銀幣壹萬元僅合日金四千餘元現爲從省府減付及適合本社情形計乃以月撥壹萬貳千元銀幣最爲折衷也並應切實聲明嗣後務本互體艱難之意一遇寬裕函予增加以符本社之預算俟中央政局一定雙方並應催請正式解決務將延滯不相顧恤諸誤會一掃而空之是爲切要至於此次備承省財各當局正義維持且在此時局之下格外推誠相助極可欽感望即備函分別致謝云々

奉此除已分別函達財政廳王委員暨民政廳李委員並請代轉有關此事各委員外相應肅函敬祈鈞零此次仰承

德意盡量維持弊方各當局無不欽感弊社副總裁必於近中將援助

盛誼詳達弊國外務樞府務使洞悉惟翼所議各節卽日見諸實行

是爲至禱弊員茲謹代表全體敬向

貴主席恭致謝忱順頌

助祺謹上

山東省政府主席韓

中日實業公司

駐魯代表 高木 潔 (原文の通り)

二十年十月二十二日

(山東李民政廳長宛出狀寫 實業借款暫定辦法ノ件 民國二十年十月二十二日)

敬啓者(以下同日致財政廳王廳長之函詞句相同)

貴兼廳長查照並祈轉達有關此事

山東省政府委員兼財政廳廳長王

中日實業公司

駐魯代表 高木 潔 (原文の通り)

二十年十月二十二日

助祺謹上

山東省政府主席韓

中日實業公司

駐魯代表 高木 潔 (原文の通り)

二十年十月二十二日

(山東王財政廳長宛出狀寫 實業借款暫定辦法ノ件 民國二十年十月二十二日)

敬啓者關於山東省實業借款暫定辦法一事於本月十七日接奉臺端及李王張河四委員商洽進行於十九日荷承五執事寵召(以下與同日致韓主席之函詞句相同)云々

奉此相應具函敬達

貴廳長查照並祈轉達

省府早賜施行是爲至荷耑此奉仰順頌

助祺謹致

奉此除已分別函達財政廳王委員暨民政廳李委員並請代轉有关此事各委員外相應肅函敬祈鈞零此次仰承

德意盡量維持弊方各當局無不欽感弊社副總裁必於近中將援助

盛誼詳達弊國外務樞府務使洞悉惟翼所議各節卽日見諸實行

是爲至禱弊員茲謹代表全體敬向

貴主席恭致謝忱順頌

助祺謹上

山東省政府主席韓

中日實業公司

駐魯代表 高木 潔 (原文の通り)

二十年十月二十二日

助祺謹上

山東省政府主席韓

中日實業公司

駐魯代表 高木 潔 (原文の通り)

二十年十月二十二日

助祺謹上

山東省政府主席韓

中日實業公司

駐魯代表 高木 潔 (原文の通り)

二十年十月二十二日

諸位委員代陳

省府(以下仍均同)

山東省政府委員兼民政廳廳長李

中日實業公司

駐魯代表 高木 潔 (原文の通り)

二十年十月二十二日

諸位委員代陳

省府(以下仍均同)

山東省政府委員兼民政廳廳長李

中日實業公司

駐魯代表 高木 潔 (原文の通り)

二十年十月二十二日

首相官邸に於ける金本位制維持に関する申し合せ

昭和六年十一月六日 於首相官邸

金本位制擁護ニ關スル申合セ

668 昭和6年11月6日

英蘭銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

六 債務整理關係

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

國際商業會議所理事會が専門家に依嘱せる銀

英國銀行ノ金賣却停止後我國國際貸借關係ノ順調ナルニ拘

ラス我國資本ノ海外ニ逃避スル金額ノ頗ル巨額ニ上リタル

コトハ内地金融ヲ壓迫スルノミナラズ遂ニハ我國ノ金本位

制ヲ危クスルノ虞アリ然レドモ目下金ノ輸出禁止ヲ必要ト

スル理由無キノミナラス輕々ニ之ヲ行フコトハ對外爲替相

場ノ下落ト激動トニヨリ我國經濟界ノ根底ニ變革ヲ來スモ

ノニシテ殊ニ目下滿洲事變ニ伴フ國際政局ノ重大ナルニ鑑

問題研究の一部發表について

669 昭和6年11月9日 在ロンドン松山商務參事官より

過般開催ノ國際商業會議所理事會ハ曩ニ銀問題ノ研究ヲ依嘱シタル専門家ヨリ提出ノ報告ニ對シ尙未タ研究ヲ要スル點アリタルト且問題ノ頗ル困難ナルニ鑑ミ一般討議ニ附スルニ至ラサリシカ今回其一部ヲ發表シタリ其主要點ハ

銀市場回復策ヲ目的トスル國際會議成立ノ氣運乏シキ折柄各國政府ニ銀本位制併用ヲ提倡スルモ實行疑ハシク又補助銀貨ノ品位改善ヲ勸奨スルモ急速實施ノ見込無キ故斯ル國際的協商ヲ必要トセサル方面ニ實行性アル對策ヲ求メタル處世界現在ノ銀生產ノ大部分ハ數ヶノ米國內會社ニ掌握セラレ居ル事實ニ顧ミ國際商業會議所ハ米國銀生產者ト印度政府ノ間ニ銀賣出シニ關スル協約締結可能ナリヤヲ研究セラレ奉シ輸出賣出シノ販域ニ於テノミ米國生產者ノ結合スルモノタルコトヲ要シ又米國以外ノ國ノ生產者カ該協約ニ

來リ參加スルコトハ素ヨリ歡迎スル處ニシテ西班牙銀行ヲ懇意シ協同動作ヲ執ラシムルコトモ亦必要ナラント説キ居レリ

尙右ノ外該専門家ハ次ノ如キ三ケノ提案ヲ爲セリ

一、各國政府力各自ニ銀ヲ以テ正貨準備ニ當ツルコト（但シ金銀ノ比價ヲ定ムルハ面白カラストナス）

二、銀ニ對スル信用ヲ回復スル爲各國政府ハ銀貨ノ品位ヲ戰前ノ夫レニ引上クルコト

三、銀生產者ニ於テ銀ノ用途開拓ニ努ムルコト（銀ノ變色妨止ヲ發明スル丈ケニテモ工業的用途擴大セラルヘシト看做ス）

右國際商業會議所本邦國內委員會へ御傳達アリ度シ

七 排日ボイコット問題

670 昭和6年7月(7)日 在上海村井總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

朝鮮排華事件に関する上海諸新聞論調報告

上 海 発
本 省 7月7日後着

第二九九號

平壤暴動事件ニ關シ七日ノ當地ノ中外諸新聞ハ孰レモ特筆

大書シ民國日報ノ如キハ「日本軍ハ鮮人ノ暴動ヲ袖手傍觀ス」トノ見出ニテ書立テ居リ他方當地市黨部全國商會聯絡會及國家維持會等モ夫々悲憤的通電ヲ發出シタル趣ナリ

新聞論調ノ主ナルモノ左ノ通

晨報（七日）

萬寶山事件ト排華暴動事件トハ同一事件ナルカ如キモ實ハ別箇ノ問題ナリ然レトモ其原因ハ何レモ日本ノ植民政策ニ

アリ即チ東三省ニ於ケル鮮農ハ日本政府ノ後援ヲ賴ミ遂ニ

今次ノ萬寶山事件ヲ惹起シ又朝鮮ニ於ケル鮮人ハ由來華僑

七 排日ボイコット問題

ヲ嫉視シ政府亦種々過酷ナル條例ヲ定メ又ハ居留手續ノ不備及租稅滯納等ヲ口實ニ華僑ヲ退去セシメ居リシ處今次ノ萬寶山事件ニ事ヲ寄セ遂ニ華僑驅逐ノ目的ヲ達シタルニ過キシシテ本件ハ決シテ一時ノ突發事件ニ非サルニ付對日交涉ニ當リテハ右癌ヲ除去セサレハ風潮ノ鎮定難カルヘシ云々新聞報（七日）

平壤暴動ノ如キ事件カ若シ他國居留民ノ上ニ發生スルカ如キコトアランカ其影響ヤ如何汪公使ハ日本當局ニ對シ單ニ僑民ノ保護ヲ要求シタルカ如キモ斯カル軟弱態度ニテハ恐ラク聲明カサルヘキニ付外交當局ハ此際嚴重對日詰問ヲ發スルト共ニ之力救濟策ヲモ講スヘキナリ萬寶山事件ノ如キハ素々彼等ノ口實ニシテ其實日本側ノ周密ナル組織的計畫ニ依ルモノナリ外交部ハ宜シク從容ノ態度ヲ以テ折衝ニ當ルヘシ

〔チャイナプレス〕（七日）

六日吉林發特電トシテ萬寶山二百名ニ餘ル日本兵士侵入シ